



第30号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」

編集クラブ



学び続けることの素晴らしさ

園田学園女子大学社会連携部部長

経営学部ビジネス学科准教授 稲垣 憲治

シニア専修コースの皆様、こんにちは。

4月から新学期がスタートして3カ月が経ちましたね。楽しく学んでいらっしゃいますか？

皆さんが日々実感されているように、本来何かを学ぶということは楽しいものです。私たちが行っているのは、受験勉強でもなく、会社で無理やりやらされる勉強でもない、自分の興味関心に基づいて行う学びです。

ですから、新たな知識を得たり、何かが新たにできるようになるということは、そのひとつひとつが楽しいものでしょう。授業で学んだことをきっかけに、自分で書籍を読んだり、インターネットで調べたりすることで、学びを深めていらっしゃる方も多いと思います。そしてまた授業に参加して新たな刺激と気づきを得ていく。こういう循環、素晴らしいですね。

とはいえ、独学ではなく、大学で仲間と共に学ぶということは、すべてが思い通りにいくものではないという面もあるでしょう。多くの人が集まる場所ですから、守るべきルールがあります。窮屈と思うこともあるかもしれません。

ご自分の常識と他の人の考えていることが違って戸惑うこともあるでしょう。カリキュラムがご自身の理解度より早かったり遅かったりということもあるかもしれません。ですが、それをただ不満と捉えるのはもったいないと思います。

そういうこともひっくるめて、全てを大人としての学びと捉えてみてはいかがでしょうか。そうか、自分の周りには自分とは違う、多様な価値観を持つ人たちがいるんだなあと学ぶ。じゃあどうしたらその空間でお互いを尊重できるのか。そして自分の学びと相手の学びを最大化するにはどんな工夫ができるんだろう、と考える。そんなふうにマイナスと思っていたことすら学びに変えてしまおうと捉えるのはいかがでしょうか。

学ぶこと・考えること・人と関係性を持つことは私たちの若さを保ってくれます。私たちは学ぶことでさらに自由になれるのです。

ぜひここでの学びをさらに楽しんでいただければ幸いです。

目次

学び続けることの素晴らしさ…………… 園田学園女子大学社会連携部部长	稲垣 憲治	P1
目次……………		P2
先生方からのメッセージ…………… 講師の先生方		P3~P6
〈特別寄稿〉鵜野飛行場跡地を訪ねて…………… (文歴)先生	中村 直人	P7
令和6年度入学式…………… 編集クラブ		P8
新入生誌上座談会…………… 編集クラブ		P9・P10
令和5年度卒業式…………… 編集クラブ		P11
卒業生からのメッセージ…………… (国際)・(文歴)・(情報)	卒業生	P11~P13
流行りの古典文学の足跡をたどる…………… 文歴2年	石谷 和彦	P14
「情報学科懇親会」4年ぶりに開催…………… 研究生	大林 泰子	P15
文歴「いちご会」のあゆみ…………… 研究生	高山 純子	P16左
文歴9期生同期会 特別講演とランチ会…………… 研究生	木下 俊造	P16右
「けやき便り」第30号までのあゆみ……………	編集クラブ	P17~P19
近松の里ぶらり散歩~近松門左衛門さん こんにちは……………	編集クラブ	P20
2人のチャレンジャーに聞く…………… 編集クラブ		P21~P22
宇宙に最も近い種子島…………… 情報1年	鈴木 好夫	P23・P24
85歳までの風景-その2 85歳を通過…………… 研究生	中村 米三郎	P25・P26
よもやま話の会報告 ひと・こと・ものに会う…………… 研究生	三木 静子	P27・P28左
〈公開講座〉楽しいコーラス…………… 研究生	橋本 秀明	P28右
私の暇つぶし「図形を解く楽しさ」…………… 文歴2年	石谷 和彦	P29・P30
『白の闇』~コロナ禍に重ねて~…………… 研究生	田中 祐二	P31・P32左
小説『お登勢』淡路島から未開の地北海道への人生の旅路…………… 国際2年	山下 信行	P32右P33
松本~奥飛騨~高山 冬紀行…………… 研究生	小笠原 昭博	P34
占いについて…………… 情報3年	田中 利二	P35
完売しました…………… 研究生	正井 美那子	P36左
光陰矢の如し…………… 研究生	井上 聖明	P36右
《ざっきちようから》(1)…………… 研究生	金森 扶美子	P37
〃 (2)…………… 研究生	峠田 桂子	P38
〈私の練習作品〉水彩画…………… 国際3年	山根 邦男	P39
〈クラブ・同好会活動報告〉 遊歩クラブ・編集クラブ・ITを楽しむ会・テニスクラブ		P40
軽音楽クラブ・朗読倶楽部・ゴルフ同好会・カラオケクラブ		~P43
<生涯学習センターからのお知らせ>……………		P44
<編集後記、原稿募集案内>……………		P45

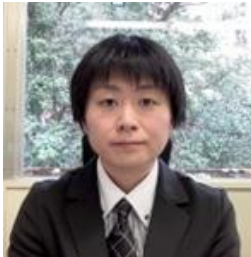
シニア専修コースでご指導を頂く先生方から メッセージ

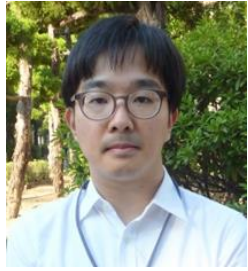
(敬称は省略、順序はあいうえお順。後期ご担当で本号に掲載
されていない先生は、次号に掲載させていただきます)

1 段目	名前	2 段目	写真	3 段目	役職名
4 段目	担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科					
大村 拓生		桑原 一歌 (くわはら もとか)		芹澤 剛	
					
関西大学非常勤講師		本学非常勤講師		本学教授	
日本史学 (3)		日本文学 (2) 日本古典文学研究		日本文学 (1)	
昨年度に引き続きの担当になります。今年度はフィールドワークも行いたいと考えています。		古代後期文学の、『源氏物語』を専門にしています。学ぶ機会がある、人と集まることができる、という幸せを忘れずに日々をすごしたいものです。日本の古典文学をたどる道のりを一緒にします。		3 回目の「土佐日記」を読んでいます。1 回目、2 回目をご一緒した皆さんはいくつもの新しい解釈の可能性と知見をくださいました。皆さんからいただいたものを生かして今年の「土佐日記」に取り組んでいます。	
中村 直人		原 朋志		箕野 聡子	
					
関西大学非常勤講師		関西学院大学文学部 非常勤講師		神戸海星女子学院大学教授	
日本史学 (2) 戦国大名とその時代 近代日本のあゆみ		日本史学 (1) 奈良・平安の人物と政争		日本文学 (3)	
日本中世史 (寺院史) を専門としています。授業では、中世 (鎌倉時代から戦国時代) と近代 (幕末維新期から昭和戦前期) の歴史について扱います。時代の制約の中で、先人達はいかに生きてきたのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸いです。		日本古代史、主に飛鳥・奈良時代が専門で、講義もこれらの時代の内容が中心です。一般的にはマイナーな人物や事件も取り扱いますが、古代の魅力を伝えられるよう努力して参りますので、よろしくお願いします。		関西を舞台にした作品や関西で愛されている作品を紐解き、そこに描かれた作品風景を考察します。すぐに出かけられる場所に眠る物語の数々が、皆さまの日常を彩っていくことができればと願っています。	

国際文化学科		
玉城 毅	樽井 由紀	松山 利夫
		
奈良県立大学教授	奈良女子大学非常勤講師	総合研究大学院大学名誉教授 文学博士
文化人類学入門（前期） アジア太平洋文化論（前期）	国際総合研究	日本の風土と文化
世界と自己に対して心を開き、常に新鮮に向き合う、そのような学問を实践したいと考えています。	アメリカはあなたにとって身近な国でしょうか。遠い国でしょうか。アメリカは広大な土地を持ち、西海岸、東海岸、その間に位置する内陸部、一つの国でありながら、異なる歴史と文化をもっています。この授業ではアメリカであまり語られなかった、人種的・性的マイノリティ、非白人移民、ジェンダーにも視点をおいてアメリカの歴史と文化を紹介します。	シニア専修コースの継続と発展に尽力しましょう！
国際文化学科		情報学科
山口 悟	山崎 浩平	小田桐 良一
		
大阪学院大学教授	龍谷大学・研究員	本学教授
国際地域文化 西洋史概論	多文化共生論	プログラミング（前期） プログラミング応用（後期）
歴史を楽しみましょう。	この列島に根ざす文化は一つではなく、また今日、濃淡の差はあれど、複数の文化が混ざり合いつつも、併存しています。本講義は受講生の皆さんと共に、他の文化を学びながら、他者との共生を模索していきます。	コンピュータでプログラムが動くことの理論の導入的な内容や、ブラウザ上で動作するビジュアルなプログラミングでの実習を担当します。プログラミング（後期）では、コンピュータに実行させたい事項を考えながら取り組みます。

情報学科		
垣東 弘一	難波 宏司	野口 聡
		
本学教授	本学非常勤講師	芦屋大学 経営教育学部講師
基礎情報（前期） Web応用（後期）	情報学科3年「課題研究」 情報学科研究生「プログラミン グ応用」	インターネット活用（前期） 応用情報（後期）
昨年度けやき便りでチャットGPTを取り上げて1年。AIはますます進化しそれを利用する社会が押し寄せています。まだまだ変わり続ける情報社会ですが、リスクを十分理解して快適な社会で過ごすため、情報について学んでいきましょう！	専門誌によると、ソフトウェア開発の分野では、AIを使った開発が進んでいますが、優れた技術者ほど、AIをうまく使っているようです。で、AIがすべて開発する時代は当分来ないだろうとのことで安心しました。	健康寿命が70歳以上の時代になりました。いまの時代を便利に生きるには、コンピュータやインターネットをうまく使うことが不可欠になっています。講座では、新しい情報を紹介します。必要に応じて利用して下さい。
情報学科		共通選択
山本 恒（ひさし）	米田 浩	谷川泰教
		
本学名誉教授	本学非常勤講師	高野山大学名誉教授
応用演習Ⅰ（前期） 応用演習Ⅱ（後期）	タブレット活用 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 応用情報（前期）	仏典を読む
入学おめでとうございます。情報を学ぼうとする皆さんに一言。情報のプロは、あなたよりもたくさんコンピュータを触って、失敗を体験しています。あなたよりもたくさんわからないことがあって、コンピュータで調べています。あなたよりもたくさん試行錯誤をしています。だからあなたよりもたくさんあなたのことを知っています。でも分からないこともあなたよりもたくさんあります。	全国的に小学生からタブレット端末を活用した学習を進められています。本学のシニアのみなさんはそれ以上にICT活用を楽しみながら学んでおられます。今年も一緒に「探求」活動ができるよう、共に学びたいと思っていますので、よろしくお願いします。	気がつけば、後期高齢者3年目、私自身いよいよ老法、病法の身であることを日々痛感しておりますが、この一年頑張つて務めを果たしたいと思ひます。シニアの皆様も無事一年間完走できますように。

共通選択		
板倉 直人	佐藤 信弥	村井 磨音
		
NPO法人国際社会貢献センター 関西デスク コーディネーター	本学非常勤講師	本学非常勤講師
国際社会の諸問題Ⅰ、Ⅱ	中国古代史入門	近世文学入門Ⅰ 近世文学入門Ⅱ
本年の講座は前・後期で7人のABIC講師が世界の各地域の現状を各3-4コマ、詳しく且つ分かり易く説明させていただきます。地域としては、中国・欧州・中東・インド・インドネシア・全般となっております。是非世界を楽しんでください。	私の専門は中国古代史と古文字学です。授業では甲骨文、金文、竹簡などあまりなじみのない史料も扱いますが、わからないことは何でも質問してください。中国古代史を通して中国の原形を探っていききたいと思います。	井原西鶴は私の師が専門としており、大学にも以前西鶴を専門にされていた方がいらした中で、私が本講義では僭越ながら西鶴についての講義をさせていただいております。講義を通じて、西鶴に興味を持ていただければ本望です。

園田学園女子大学

近松研究所 のご案内

近松研究所は、近世演劇・芸能を中心とした専門図書館の機能を備えています。浄瑠璃や歌舞伎などの戯曲作品、古典演劇に関する基本文献、研究書、雑誌大学紀要所の論文などを幅広く収集しており、開架閲覧室で公開しています。特に、平成元年以降に発行された文献は網羅していますので、研究調査等に御利用ください。どなたでも閲覧していただけます。貸出には「利用者証」が必要です(右表参照)。複写についてはお問い合わせください。

開室日 月曜日～金曜日 10:00～17:00

閉室日 土・日・祝祭日。

夏季休業期間、年末年始、年度末の一定期間、その他大学閉学日。

夏季休業期間中は週1日開室します。詳細はお問い合わせください。

利用者区分	貸出限度冊数	貸出期間
園田学園女子大学(本学)学生	10冊	15日間*
本学教職員	50冊	2カ月
本学非常勤講師	10冊	1カ月
本学卒業生・公開講座受講生・シニア専修コース生・シニア研究生・地域開放・その他	5冊	15日間

本学学生・教職員以外の方(地域開放等)の「利用者証」交付申請その他詳細は、本学図書館(<http://www.sonoda-u.ac.jp/tosyo/index.html>)にお問い合わせください。

Access

- 阪急「塚口」駅より徒歩10分
- 阪神「尼崎」駅より尼崎市営バス13系統「南塚口町1丁目」下車
- JR「立花」駅より尼崎市営バス14系統「園田学園女子大学」下車



近松研究所のパンフレットより

先生からの寄稿文

鶉野飛行場跡地を訪ねて

日本史学(2) 他 中村 直人

去る四月の末、鶉野飛行場跡(兵庫県加西市)を見学しました。戦時中の1943年に造成された海軍練習航空隊の基地(飛行場)の跡地です。戦後、練習航空隊の滑走路は農地になりましたが、戦闘機「紫電」^{しでん}「紫電改」^{しでんかい}の試験飛行に使用されたコンクリート製滑走路や防空壕・掩体壕^{えんたいごう}・対空機銃座などが現存し、これらは戦争遺跡として保存・公開されています。

北条鉄道の法華口駅(味わい深い駅舎は1915年の建築)から歩いてすぐに、飛行場跡の区域に入ります。道すがら、雑木林に沿って防空壕跡が目につきます。分厚いコンクリート造りの爆弾庫跡もありました。空から目立たぬよう横穴式に造られています。私にはどれも、古墳の横穴式石室の開口部のように見えました。

コンクリート製の対空機銃座跡には、25mm対空機銃の実物大模型が据えられていました。対空機銃の構造がよくわかり、とてもタメになります。日本軍の対空機銃には、敵弾から身を守るための防楯^{ぼうじゆん}が付いていませんでした。機銃手たちは、敵機からの機銃掃射に身をさらしながら戦いました。その凄惨な様子は、渡辺清『戦艦武蔵の最期』(角川新書)に詳しいです。

滑走路に到着します。長さ1200m、幅60m、コンクリート敷きの滑走路です(長さ800m分が現存)。これをテクテクと歩きます。コンクリートの「道」を歩くだけなので、とくに面白くはありませんが、雰囲気を楽しみます。

やがて施設「soraかさい」に到着します。海軍の戦闘機「紫電改」と攻撃機「九七式艦上攻撃機」の精巧な実物大模型が展示されています。ともに鶉野飛行場と関係する機体です。

「九七式艦上攻撃機」は、太平洋戦争の前半

に活躍した攻撃機です。真珠湾攻撃では、米海軍の戦艦群を魚雷と爆弾で破壊しました。鶉野飛行場に展開した姫路海軍航空隊は、この「九七式艦上攻撃機」による実用機訓練を行った部隊でした。戦争後期、当航空隊は特攻隊に編入され、21機63名の搭乗員が「護皇白鷺隊」^{ごおうはくろたい}として九州の海軍串良基地(鹿児島県鹿屋市)に進出し、沖縄付近で散華しました。

「紫電改」は、戦時中に登場した海軍の迎撃用戦闘機です。米軍の戦闘機に匹敵する性能をもつ優秀な機体でしたが、総生産数400機程度では話にならず、その活躍は限定的でした。

所詮は模型であるとバカにしていたのですが、実物同然の迫力に感心させられました。この太い胴体は零戦にない力強さです。



「紫電改」を開発・生産したのが川西航空機^{なるお}です(現新明和工業)。西宮市鳴尾に本社と本社工場がありました。戦時中、航空機増産のため姫路製作所が設置されました。ところが同製作所には、完成機の試験飛行をする飛行場がありませんでした。そこで鶉野飛行場を利用することとし、同所に組立工場が設置されました。

すなわち、姫路製作所で生産された「紫電改」は、いったん分解されて鶉野まで運ばれ、組立工場で再び組み立てられた後、鶉野飛行場で試験飛行を行いました。何とも効率の悪い話です。

春の農村は鳥たちの声で満ちてました。とくに雲雀が賑やかです。雉の鳴き声を間近で聞いたときは感動しました。実にのどかな田園風景。かつて飛行機の爆音が轟き、米軍機も飛び交っていたとは、なかなか信じられません。

以上、鶉野飛行場跡は戦時中の飛行場の遺構がまともに残る、見所の多い戦争遺跡でした。

ご入学おめでとうございます

令和 6 年度 シニア専修コース 入学式

本年度のシニア専修コース入学式が4月 11 日、3 号館の AV ホールで行われました。新入生は、文学歴史学科 7 名、国際文化学科 7 名、情報学科 17 名で、合わせて 31 名の入学式となりました。



大江学長の式辞



齊藤悦一理事長の挨拶



稲垣部長の挨拶



◀ 新入生を代表して入学許可証を受け取る文学歴史学科の代表



▲ 入学式の光景

クラブ・同好会の紹介



けやき IT を楽しむ会



けやき遊歩クラブ



けやきカラオケクラブ



けやき軽音楽クラブ



けやきテニスクラブ



けやきゴルフ同好会



「けやき便り」編集クラブ

(取材:「けやき便り」編集クラブ)

シニア専修コースによろこ

令和6年(2024年)度 新入生誌上座談会

これから3年間 ともに楽しく 学びましょう！

《参加者》 新多 千鶴子(文歴) 河野 総江(文歴) 高岡 恵美子(国際)

荒木 薫(国際) 内田 徳美^{なるみ}(情報) 榎並 清隆(情報)

「けやき便り」編集クラブでは、新入生の6名(各学科2名ずつ)の皆さんに、入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で質問し、いただいた回答を集約して「誌上座談会」としてまとめました。

▼園田シニア専修コースに入学された動機を教えてください▲

新多 昨年10月に退職し、以前から学習できる何かを探していたところ、シニア専修コースのことを知り、迷わず入学しました。

河野 古文が好きなのですが、知人に紹介されて入学しました。

高岡 これからは、やりたい事はやりたい時にチャレンジしようと思っており、やりたい事の一つに「学校で学びたい」がありました。興味があるコース設定、大学に通い授業を受けることができる、通学がしやすいと考えて入学しました。

荒木 退職して家にずっと居てはいけなと言われて、神戸シルバーカレッジと阪神シニアカレッジに通っていました。次は園田に挑戦したいと思いました。

内田 10年以上、両親の介護を一人でやり、看取った後に知り合いの小学校の校長先生から声をかけていただき、6年間学習支援員として働きました。私が介護に悪戦苦闘している間に、世の中はすっかり変わっていて、3年前から、子供たちは全員タブレットを使うようになり、その事についていけなかったのが、情報学科で学ぼうと思った理由です。

榎並 キャリアアップでもなく、ブラッシュア

ップでもない、年を取ることによる前頭葉への刺激を与えるためにはどうしたらいいかを考え、非日常であるキャンパスライフを送ることで活性化されるのではないかと考えました。また3年間学べることも動機の一つです。

▼やりたいこと、挑戦されたいこと▲

新多 今まで知らなかったこと、深い所を学習し、吸収していくことです。

内田 大きすぎる夢ですが、プログラミングまで学べたらいいな、と思っています。

河野 特にはありません。

荒木 私は飲むことが好きなので、学園周辺の飲み屋を開拓したいと思っています。また、飲み友達を見つけていろんな人の体験や人生観を聞いてみたいです。

榎並 私たちの学生時代に学ばなかった、IT・環境問題(公害を除く)・ジェンダーなどやりたいです。仕事で一杯一杯だった現役のころに世の中は多様に変化しました。そのうちでまず情報について学んでから次に進みたいと思っています。

高岡 3年間、学生として新鮮な気持ちで好奇心を持って授業を受け、いろんな方と出会い、楽しいキャンパスライフを過ごしたいと思います。

▼授業についての感想、クラブ・同好会活動への興味や希望など、学園生活を始めての印象についてお聞かせください▲

河野 授業はわからないこともありますが、興味深く感じています。仕事をしていますのでクラブ・同好会については特に考えていません。

荒木 文化人類学を学んでいますので、先生方のフィールドワークでのお話を期待しています。また、趣味が社交ダンスなので、同好会ができたら嬉しいです。

榎並 久しぶりに受ける90分授業が、こんなに短かったのかと驚いています。パソコンという基礎もなく、仕事だからとOJTで教えてもらった知識を補うため、楽しく授業を受けています。クラブはまだ始まったばかりでよくわかりません。

高岡 授業は新しい知識を得たり、近年の話題につながったりと、自分の中で整理するのが大変ですが楽しいです。クラブは遊歩クラブに入部しました。これからのイベント参加が楽しみです。

新多 興味のある授業なので、時間があっという間に過ぎます。クラブ・同好会活動では、ゴルフ同好会に入会しましたが、皆さんについていけるかドキドキしています。

内田 最初、パソコンに触ること自体がこわかったのですが、先生方が皆様優しく丁寧で安心して学んでいます。この3年間はしっかり学びたいので家事と勉強に専念します。

▼先輩たちや学校(生涯学習センター)などへの要望について▲

高岡 先輩の方々が、クラブ活動などとても楽しそうで、活き活きされているのを感じます。

河野 いまはまだよくわかりません。

内田 特に要望はありません。

荒木 授業に出た参考文献を探しに図書館へ行きましたが、ありませんでした。文化人類学関連の蔵書の充実を望みます。

榎並 年を取ってから何かを学ぶというのはときにはハードルが高いこともあるかと思います。生涯学習センターの方々には、そのハードルをいかに下げていくかを考えていただいているとは思いますが、私たちとの意見交換の場などを設定していただければと思います。

新多 文学歴史の1年生は7人ですが、クラスの皆さんがよくわからない。集まる機会があればいいなと思います。

▼その他感想、意見などございましたら▲

榎並 まだ始まったばかりです。学食、図書館、グラウンド、キャンパスライフをいかにエンジョイできるか。そのことばかりを考えている日々です。

高岡 授業がない日でも、図書館を利用するのが嬉しいです。食堂も、若い学生さん達の横で食事させてもらいパワーをもらっています。

内田 今のところ、授業についていくのに必死ですが、しっかりICTを身につけて、できればもう一度かわいい子供たちと勉強したいと思います。

編集クラブから

入学早々、新入生の方々にご無理をお願いして、誌上座談会に参加していただきました。

今年からクラス委員選出がなくなりましたが、座談会への参加について、クラスで話し合って快く引き受けていただきました。

座談会からは、新しい学びの世界へ飛び込んだ皆さまの、新鮮で前向きな意気込みが伝わってまいります。ありがとうございました。

(まとめ:「けやき便り」編集クラブ)



「けやきアヴェニュー」(4月26日)

令和5年度 シニア専修コース 卒業式

3月1日(金)の午前10時から、令和4年度シニア専修コースの卒業式がA Vホール(3号館・2階)で執り行われ、大江学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。卒業生は、文学歴史学科16名、国際文化学科10名、情報学科8名の計34名でした。



卒業式に際して式辞を述べられる大江学長



寺田部長の挨拶



卒業証書の授与



卒業式の光景

(取材:「けやき便り」編集クラブ)

卒業生からのメッセージ

一生勉強 一生青春

国際文化学科 平田 慎策

まずもって新入生の皆さん、おめでとうございます。生涯学習の場へようこそ。このシニア専修コースを選ばれた動機は様々でしょうが、前頭葉を刺激する絶好の場です。勉強でもクラブ活動でもしたいことをすると、脳は喜び若返るらしいです(和田秀樹「80歳の壁」)。きっと身も心も軽くなります。

さて、私たち国際文化学科17期生は去る3月1日、卒業式を迎えました。当初15人でス

タートしたクラスも、あの憎き“コロナ”のために1年生修了後は全員2年間も留年(?!)、オンライン授業なんぞなく卒業まで5年もかかってしまいました。その間に残念ながら5人も退学。残る10人に仲間意識のようなものが芽生えたのは自然なこと、皆が無事卒業できたのは大変うれしいことでした。

卒業式当日は、一人一人登壇して大江学長から卒業証書を受け取りました。その時私は一瞬、学科総代にでもなったかのような晴れがましい気持ちになったのです。新調のスーツを着ていった甲斐があったというものです(スーツ姿は10数年ぶり)。卒業生たちは一様に改まった服装でした。何もしていなければ、この歳では味わえない晴れやかな気持ちをそれぞれが味わったのではないのでしょうか。

くしくもこの日は園田学園女子大が2025年4月より共学化へ段階的に移行すると公式発表した日。多忙な折、卒業式に出席いただいた大江学長に感謝するとともに、園田学園の一層のご発展とシニア専修コースの益々の充実をお祈りする次第です。

さて、シニア専修コースの特色は何といても、好きな講座を1

人の先生から、それも妥当な授業料で聴けるということ。ただし体系立った知識を習得できるかは貴方次第。私はといえば居眠りをしては生唾を飲み込んで咳き込む体たらく。知識は何にも残らなくても、体系的に聴いたという満足感で十分です。

クラスの中には軽音楽部の歌姫として活躍した人やテニス部で若い大学のテニス部員とも試合を楽しんだ人など、クラブ活動を堪能した人も多くいました。また昼の休憩時間には、昼食を一緒にしながら交友を深めたのも良い思い出になることと思います。心残りはいっと「校外学習」をしたかったくらいでしょうか。

卒業後は10人の同級生のうち、5人が研究生に、2人が情報学科に再入学、2人が公開講座に、1人が住まい近くのシニア講座へと、それぞれ新しい出会いと一生青春を求めて進んでいきました。同級生の皆さん、また会いましょう。

最後になりましたが、充実した講義をしていただいた先生方、お世話になった職員の皆さまに心から感謝申し上げます。



塚口駅前「愛蓮」にて卒業祝賀

式が行われ、私たち文学歴史学科も卒業式に参加致しました。卒業式は、学長が出席されるという正式な形のものでした。

卒業生は、普段のキャンパスではラフで活発な服装で過ごされていますが、この日はしっかりと正式な服装をされている方が多かったです。当日、男性はスーツにネクタイ姿、女性は着物の方や真珠のアクセサリやコサージュを身に着けられた方が見受けられました。卒業証書は、ひとりひとり名前を呼びあげられ、壇上で学長から直接授与されました。ほとんどの方が卒業式の経験は何十年ぶりと思われまふ。入学当初は約20名でしたが、2019年度入学組でこの日卒業証書を授与されたのは16名でした。3年間で修了のはずがコロナ禍に直面し5年間かかりました。こうして健康に気を付けて卒業式に参加できたのは、別の意味でも感慨深いものでした。

卒業式後は、文学歴史学科の希望者により近隣の会場で懇親会を開きました。食事が出されると、改まった雰囲気がすぐに柔らかくなり、ビールやソフトドリンクを片手にお互いに話が始まりました。そこでひとりひとりが順番に立って思い出や今後の抱負について話すことになりました。皆様お話の上手な方ばかりですが、なかには漢詩を読まれる方もおられ、それぞれの方の人生経験の豊かさやレベルの高さを感じました。2時間ほどの短い時間でしたが楽しい時を区切りの日として過ごすことができました。今後はほとんどの方が研究生として登録されるようです。2019年入学組に関わらず、ここで知り合った人達はこれからも友として引き続き親交を深めていきたいと思ひます。

シニア専修コース文学歴史学科卒業に乾杯！！

文学歴史学科を卒業しました

文学歴史学科 南畑 早苗

2024年3月1日にシニア専修コースの卒業



卒業にあたって

情報学科 前川 忠行



園田の門を叩いて、5年が過ぎました。退職後数ヶ月、喪失感からかほぼ引きこもりの状態が続き何とか打破しようと通信教育とかシニア向け講座等あちこち検索し、最終的に「園田“シニア専修コース”」を知り入学を決めました。

情報技術というジャンルに興味があったのも要因です。現役時代から仕事でパソコンやWord・Excel ソフトには慣れ親しんできましたが、講義を通じて、情報技術を体系的に学びたいと思いました。

情報学科での最初の1年間は17名のメンバーが在籍し、活があり講義内容への評論や時には先生に授業の進め方への注文を申し上げたり(笑)、授業以外でもランチ会や忘年会などで懇親を深めていました。

授業最終日にはケーキハウスで打ち上げし「4月まで皆さんお元気で！」と新年度での再会を期待し別れましたが、コロナ禍で2年後再開した際は8名に減っていました。活があった校内もシーンとしており、私自身も何となく入学時の意気込みが消え淡々と授業を消化しているような状態でした。

その中で印象に残った授業は、2年の応用演習Ⅱ(写真の加工、編集)で、受講を機に画像生成AIに挑戦していき、遂には3年の「課題研究」では「画像生成AIの利用について」の課



画像生成 AI 事例

題発表に取り組む事が出来ました。

近年、AI(人工知能)の技術は急速に進歩しており、さまざまなビジネスシーンで活用されています。その中でも、生成AI

は、画像やテキスト、音声などの創造的なコンテンツを自動生成できるAIの一種として、注目を集めています。生成AIはまだ完全ではなく、誤った情報や不適切な内容を含むこともあります。そのため、生成AIを利用する際には、常にその信頼性や倫理性に注意する必要があります。シニア層にとって、生成AIはどのように活用できるのか?特に画像生成AIについて取り組んでみました。

スマホやPCにもAIアプリが搭載される時代になってきています。情報学科のカリキュラムにも今後生成AIに関する授業が盛り込まれるのを期待しています。

メンバーとは塚口駅までの帰り道に講義の話や世間話に花が咲き、ランチ会や忘年会、卒業祝い会など、楽しい思い出となっています。

また懸案だった1・2年生の歓迎会を兼ねた情報学科懇親会をOB方の押し・ご協力も有り、授業最終日に何とか開催できたのも良き思い出となりました。こういった伝統を繋いで頂きたいものです。

結果として楽しい学園生活を過ごさせていただきました。学ぶ姿勢を崩さず、挑戦して学ぶことの大切さを知り、また多くの人と出会ったことは人生観を豊かにしてくれました。

新年度から私は研究生としてもう少し情報学に関する科目に取り組んでみたいと思っています。今回、研究生となられる方、退学される方など、それぞれ行く道は、異なるかもしれませんが、お体を大切にご活躍されんことをお祈り申し上げ、クラスメイトを始め「園田」を通じて出会えた方々に感謝!!

クラスの学習ツアー

流行りの古典文学の足跡をたどる

文学歴史学科2年 石谷 和彦

2024年6月5日に、文学歴史学科2年生の学習ツアーとして、京都府にある「宇治駅周辺」を散策してきました。

ツアータイトルは『源氏物語 宇治十帖』をたどって」であり、文学歴史学科2年生の日本文学の授業が6月からは『源氏物語』に入ることや、今年のNHK大河ドラマが『光る君へ』で源氏物語を執筆した紫式部の物語であることから、源氏物語の中の最後の場所である宇治近辺を巡ることとしたものです。

当日の天候はきれいな快晴で、朝10時に「JR宇治駅」前に集まり、「平等院鳳凰堂」→食事休憩→「宇治公園（宇治川の中の島）」→「宇治神社」→「宇治上神社」→「源氏物語ミュージアム」と巡り、「京阪宇治駅」での一旦解散となりました。

その後は希望者を募ったオプションとして、宇治からほど近い伏見での酒蔵見学や歴史史跡の見学などを楽しみました。

このツアーでは日程を調整中の段階で、予定日が宇治市内で最大の祭りである縣（あがた）神社の「あがた祭り」の当日であることがわかり、混雑が予想されるために日程の変更も考えられましたが、メンバーの「にぎやかなほうが楽しい」との意見を受け、祭り当日に実施することとなりました。

祭り自体は「深夜の奇祭」と呼ばれる午後11時からでしたので、若干の人出はありましたが混雑やツアーに支障が出ることはなく、露店の出店などもあり楽しく過ごせました。

全体では宇治駅周辺のための4kmほどのコースで、見学場所での時間もゆとりがありましたので、「まひろ」や「藤原道長」などがいた平安

時代の幽玄をじっくりと感じることができ、健康的で古典文学や歴史の学習にもなる楽しい1日であったと思います。



平等院鳳凰堂での集合写真



宇治上神社にて



宇治公園（朝霧橋）での集合写真

「情報学科懇親会」4年ぶりに開催

研究生 大林 泰子

情報学科懇親会は、私たちが3年の時に開催したのが最後で、その後コロナ禍で大学自体の休校が2年、授業が再開するも様々な制限があり途切れてしまいました。

そして今年は、情報学科の研究生として、受講できる最後の年になり、このままでは後輩の方たちは懇親会を知らないまま卒業してしまうのではないかと声が上がりました。ご存じのように、シニア専修コースは、3学科ありますが、特に情報学科は、シラバスに記載の内容や授業内容、また、3年生での課題研究発表の情報を先輩方からアドバイスしていただいたりと、縦の繋がりの重要性を感じていました。懇親会は、その先輩方との唯一の交流の場で、この時に色々お話を聞かせていただいたものです。なので、この縦の繋がりを途切れさせてはいけないと、3年生の前川さんに相談し、開催することになりました。

これまでの懇親会は、6月に開催していましたが、それでは3年生が卒業してしまうので、急遽、今年の2月7日(水)とし、5号館2階のチャティーを予約しました。しかし、実際に動き出したのは、12月後半で、皆様にご案内できたのは1月の授業開始からでした。

そして迎えた懇親会当日。

参加者は、1年生10名、2年生2名、3年生7名、研究生6名、そして急だったため先生方

の都合がつかず、山本先生(本学名誉教授)には無理を云って出席していただきました。社会連携部生涯学習センターの寺田部長も出席くださいました。



これまでは、夕方のアルコール解禁時間で、立食形式で行い、ビンゴ大会等のイベントも行っていましたが、今回は、軽食とソフトドリンクで、歓談のみの着席形式で行いました。

まずは、集合写真を撮り、大学関係者のご挨拶で懇親会が始まりました。テーブルには各学年が混ざり合い、後輩から先輩に、TA※さんがいなくなり授業についていけるか、課題研究はどのようにして決めたのか等、日頃聞けなかったことをこの機会にと質問されていました。

慌ただしく開催された情報学科懇親会でしたが、盛会の内に終わり、これで少しは、縦のつながりが作れたように思います。2年生、3年生の方々が、これからも引き継いでくださり、情報学科の授業がより楽しいものになりますことを願っております。



※TAとは、ティーチングアシスタントの略で、大学の授業やその準備を行う教員をサポートし、授業の円滑化を図る役割をする人。24年度からは、TA制度はなく、代わりに大学の学部学生がSA(スチューデントアシスタント)として補助していただきます。

文学歴史学科15期生同期会

「いちご会」のあゆみ

研究生 高山 純子

「いちご会」は文学歴史学科15期生の同期会です。食べ物の「いちご」ではありません。2016年に入学して同じクラスになったとき、この集まりに名前を付けようということになり、15期生なので「1(いち)」と「5(ご)」で「いちご会」に決まったのです。

それ以来毎年、新年度の始めには必ず集まり、忘年会や有志による旅行などで親睦を深めてきました。卒業時には日帰り旅行も実施しました。

卒業してから受講日は分かれてましたが、1ヵ月に1回できるだけ多くのメンバーが集まれる日に開花亭で昼食を共にしながら、近況報告や情報交換をしました。

その後コロナ禍による休校で一時途切れたのですが昨年2023年度より年度始めの集まりを再開しました。



今年度の集まり

卒業してしまうとクラスの仲間との関係は希薄になっていくのかもしれませんが、3年間一緒に過ごしたのですから時々みんなで集まることのできたらうれしいですね。

「いちご会」には90歳を超えた人や、すでに2つの学科を卒業して、今年3学科目に入学した人もいます。しかし入学時には21名であったのが卒業とコロナ禍を経てそれぞれの事情もあり、今年度の受講者は9名になってしまいました。



卒業旅行にて

それでも「いちご会」はメンバーがいる限り続いていくことでしょう。

文学歴史学科9期生同期会

特別講演とランチ会

研究生 木下 俊造

2023年11月8日、阪急塚口駅に集合し、半年ぶりの同期会イベントが、10時30分に立花北生涯学習プラザからスタートです。

当日は、本学名誉教授の吉村稔先生の特別講演「瀬戸内寂聴の在りよう」に、講演前から既に十数年前へタイムスリップし、懐かしさと賑やかさを楽しんでおられるようでした。

講演は、いつもの吉村節はもちろん、寂聴さんへの思いも加わり、あっという間に時間が過ぎ、次のミッションへの移動中も、お喋りの花が咲いたのは言うまでもありませんでした。



講演会イメージ

次のミッションとは、講演とともに皆様お楽しみのランチ会で、阪急塚口駅近くの「食彩YAMATO」へ16名が集まり、お昼時を少しずらして貸し切りでの開催です。

先生のご挨拶からスタートし、美味しい食事と皆様の近況も含めたお話で、またまた時計の針が早回しになったのか、すぐにお開きの時間を迎え、なごり尽きない中でしたが、次回元気で会えるのを楽しみに散会となりました。

シニア専修コースと「けやき便り」のあゆみ		
H13年	2001年	生涯学習センターを設置
H14年	2002年	「3年制 シニア専修コース 「文学歴史学科」を設置
H15年	2003年	7月「けやき通信」第1号発行
H17年	2005年	4月「けやき通信」第11号（最終号）
H16年	2004年	「国際交流学科」（後に国際文化学科）スタート
H21年	2009年	「情報学科」スタート
H22年	2010年	1月「けやき便り」第1号発行
R2年	2020年	コロナ禍でシニア専修コース休講
//	//	第22号から休講中は「電子版」発行
R4年	2022年	シニア専修コース再開
R6年	2024年	7月「けやき便り」第30号発行

「けやき便り」の前身「けやき通信」創刊号
平成15年（2003年）7月



「けやき便り」創刊第1号

2010年（平成22年）10月



今井学長の巻頭言「学びへの情熱」

「けやき便り」

30号を迎えました

「けやき便り」編集クラブ

2001年から3年間続いた「けやき通信」の後を引き継いで2010年に「けやき便り」第1号が発行され、本号で30号を迎えました。

そこで、これまでの「けやき便り」の中から、記憶に残るひとこまや、編集部員の「推し」の記事をピックアップしました。また、現編集部員のメンバーからの一言と、歴代編集長から当時の様子を振り返っていただきました。

企画：編集クラブ

編集クラブ員からの一言

○櫻井 秀也（現編集長） 第1号からの「けやき便り」を読み返しながら、そのときどきの先輩たちの生き生きとした喜びの姿に引き込まれました。今の我々シニアも同じです。新たな学びの世界へ飛び込み、仲間と語り、体験し合う喜びは何にも代えがたい幸せに満ちているように思えます。

「けやき便り」で“今”の姿を発信してくださる投稿者の方々、応援して下さる読者の皆さま、そして試行錯誤しながら発行を続けて下さった編集クラブの諸先輩や仲間の皆さんに、あらためて心からの敬意を表したいと思います。

○伊藤 幸子 毎回投稿者の多様な知識や趣味に感心するばかりです。

○大谷 典子 ホッチキス止めを手伝いながら、クラブ員の方たちや記事からたくさんの刺激やパワーをもらっています。

○金森 扶美子 中村元編集長に“リトルワールド”のワニとダチョウの肉で釣られて入部し11年。好きと楽しいで、まあ、よく続いたものです。

○木下 俊造 第2号からの関わりに感謝し、皆様方の声が聞こえる編集会議が、これからも続きますよう願っています。

「けやき便り」30号

学び・交流・活動・
想いの表出

- 河田かつのぶ 「人間探訪」を何度か担当し、素敵な出会いの場となりました。
- 酒井 恵理子 原稿をお願いして多くの執筆者とより深い関係を築けたのは何よりの宝物。私にとって、皆さんが師匠に感じます。
- 高山 純子 コロナ禍で休校中に電子版「けやき便り」の発刊に携われたことは、モチベーションを維持する一助になりました。
- 峠田 桂子 発刊 30 号に思うことは「けやき便り」第8号(2013年)から参加できて幸いということです。変わらずに元気で読者と共に良きコミュニケーションを続けたいと思います。
- 平田 好子 最近は編集会議になかなか参加出来ず申し訳なく思っていますが、楽しい雰囲気「けやき便り」編集クラブを離れがたく今にいたっています。
- 藤原 多計治 「けやき便り」の編集会議では喧々諤々の論議がされますが、会議が終わればワンコインビール付きのたこ焼き最高です。
- 松本 康栄 投稿された方々の思いや言葉を大切にしたいと思います。

○ 三木 静子 田中祐二さんの投稿をいつも楽しんで読ませてもらっています。読書や映画のあらすじや見どころの紹介とともに、ご自身の人生観なども織り交ぜての記事です。特に 27 号が印象深かったです。

○ 宮本 裕江 「けやき便り」3号へ園田に入学して初めて投稿し、そこからのご縁です。いろんな方とお近づきになれました。

○ 十河和夫、正井美那子、大林泰子、榎並清隆
協力して編集クラブを頑張っています。

先生とともに学びを深める

先生と受講生がともに企画し、現地を訪問、学びを深める取り組みがあります。

第17号 2017年6月(文歴2年 河田さん)



仲間と共に学びを広げる

フィールドワークや学習会などを仲間に呼びかけて、多くの活動の場が広がりました

第3号 2011年6月

「ニュージーランド学外研修が行われました」
(研究生 福井さん)



ヘリ遊覧飛行体験。
マウントクック雪上
着陸、景観に息を呑む。

表現する・私の作品

第20号 2019年6月



「東山ひがし茶屋街」水彩画
(文歴3年 山根さん)

第19号 2018年11月



絵手紙
(文歴3年 阿部野 さん)

『けやき便り』歴代編集長から

「けやき便り」の思い出

元編集長 中村米三郎さん 「けやき便り」の前に情報誌月刊「けやき通信」が11号まで発行され、その後休刊になっていました。「けやき通信」の名を引き継いでとの声もありましたが、新たに「けやき便り」として発行しました。

創刊時は、「人がいない」「原稿がない」で大弱りでした。特に、製本時は一日がかりになりました。多分、当初は発行部数200冊、1冊は30ページで、製本枚数6000枚は本当に大変でした。事務所と相談して創刊号から「ホームページ化」でき、良かったです。(研究生)

ファイト！ 昭和枯れすすき

元編集長 木下俊造さん 第30号の発刊おめでとうございます。

紙中心からオンライン配信への流れもあり、入部した2010年代前半とは様変わりし、印刷製本後に間違いが見つかって、何百枚も入れ替えを行ったのが夢のようです。

手作業から電子機器での作業が主になった今、終了後のミーティングを含め編集会議、ホッチキスの製本作業は、まるで昭和が帰ってきた雰囲気溢れ、ありがたさと懐かしさを満喫しています。(研究生)

第30号「けやき便り」発刊に向けて

前編集長 樽井敏彦さん 平成25年から5年間に渡り、8号から17号の発刊に携わりました。11号では園田生涯学習開設35周年の記念行事や開設に関わった関係者からの寄稿文などを特集記事として掲載しました。編集長時代には「園田シニアの人間探求」や「読者広場」など新しい企画にも挑戦しました。これからは講師の先生方へのインタビュー記事をシリーズ化しても面白いと思います。「けやき便り」作りを通じて、編集会議後の「タコパ」や打ち上げ会で笑い転げた愉快的楽しい編集仲間と出会えたことに感謝しています。

*上の3人の原稿を編集クラブが短くまとめました。

個人で行動する、旅にでる

個人旅行記は「けやき便り」にたくさん投稿されます。旅先での出会い、発見が、その人らしい語り口で表現されます。

第20号2019年6月 「パリ旅行」(国際1年十河さん)

▼サルトルとボーヴォワールの墓の前で



カフェ「カフェ・ド・フロール」にて▲

園田シニアの人間探求

「けやき便り」では2015年の第11号から、個人に焦点を当て、インタビューなどを通して紹介する「園田シニアの人間探求」欄を折に触れて設けてきました。

人間探求1

第11号2015年1月

「私の“ちんどん”ものがたり」

(文歴1年伊藤さん)



熊野本宮大社にて(左から2人目が伊藤さん)▲

公開講座「人間を考える」

本校の公開講座「人間を考える」は1982年にスタートした歴史ある看板講座で、本学シニア専修生も講師を務めています。



第14号2016年6月

「私のコミュニケーション術」

(研究生 阪田さん)



第20号2019年6月

「私の夢」

(研究生 乙度さん)

近松の里 ぶらり散歩

近松門左衛門さん こんにちは

「けやき便り」編集クラブ



「近松のまち」尼崎

近松門左衛門は、江戸時代に活躍した人形浄瑠璃や歌舞伎の劇作家で、「東洋のシェイクスピア」と称され、「曾根崎心中」や「国姓爺合戦」などが知られています。近松の墓がある尼崎市は1986年の市政70周年を機に「近松」を核としたまちづくりを進めています。編集部は、阪急塚口駅前から「ちかまつロード」を通して、「近松の里」をぶらり散歩しました。「近松門左衛門さん、こんにちは」の気持ちでした。

「近松断章」—阪急塚口駅前

南改札口を出た所にあるのが、「曾根崎心中」の部分、遊女おはつと醤油屋の手代徳兵衛の道行場面が、「此世の名残 夜も名残 死に行身をたとうれば 仇（あだ）しが原の道の霜 一足つゝに消て行 夢の夢こそ哀なれ・・・」と刻まれています（「近松断章」）。



御影石の硯石の碑、説明文の碑がありました。

近松の墓—廣濟寺

廣濟寺には、近松夫婦の墓が残っています。近松をはじめ大坂の芸能関係者が廣濟寺再興に関わったといいます。近松が奉納した品々もありましたが、現在は隣の記念館に展示されています。また、近松が大坂の喧騒を離れて執筆するため、廣濟寺境内に近松部屋があったといわれています。日蓮宗

の寺で、近松寺ともいわれています。

近松公園—近松像や記念館

公園内には近松座像（写真上）や「近松の所作の如くに 散る落葉」と刻まれた中島双風の歌碑が建っていました。

公園内にある近松記念館は、地域の人たちが近松没後250年を記念して建てたもので、近松の肖像画や近松作品のパネル、大阪で近松作品を上演する際に立ち寄った役者の色紙などが、所狭しとならんでいました。近松が執筆活動をした近松部屋のミニチュアもあります。

近松研究所—園田学園女子大学内

近松研究所は、5号館3階にあります。閲覧室に入る前の空間には、文楽人形や芝居絵が展示されています。開架閲覧室は近世演劇・芸能を中心とした専門図書館の機能を備えており、シニア専修コース生なら閲覧貸出ができます。ぜひのぞいてみてください。

近松の碑はまだまだ・・・

ピッコロシアター前や近松公園前バス停近くのモニュメントなど見どころはまだあります。

参考文献：「近松のまち あまがさき」チラシ／「近松記念館」パンフレット／「近松研究所」パンフレット



文歴と国際を経て情報学科へ

2人のチャレンジャーに聞く！

2つの学科を卒業し、今春情報学科の新入生になられた、鈴木好夫さん（写真左）と十河和夫さん（同右）に誌上インタビューしました。

▶ 研究生としてではなく、2学科目、さらに3学科目にチャレンジされた理由をお聞かせください。

鈴木：公開講座「人間を考える」で発表したこともあります。クラスメイトと学ぶ3年間で有意義に過ごせるのが理由です。（実のところ研究生は毎年登録料5千円ですが、再入学は3年間で5千円です）

十河：もともと、文学が好きなので文学歴史学科に入学しました。趣味が海外旅行なので、文化人類学を学ぶのも面白いのではと国際文化学科に入学しました。情報学科は、海外旅行で撮り溜めた写真の整理、旅のブログを発信をしたいためチャレンジしました。

▶ 情報学科へ入学された動機、現在の心境はいかがでしょう。

鈴木：パソコンが普及し始めたころから職場で使用してきましたが、今日まで我流でしたので最新の知識を基礎から学ぼうと入学しました。授業では先生の説明を聞き、教科書を見ながらの作業は思っていた以上に忙しいです。

十河：宿題があるので思った以上に時間を取られるのが予想外でした。最新で有料のoffice365が学校で使えるんですが、家のパソコン環境と学校のパソコンとでは操作方法が違って時間がかかるので頭を抱えています。

▶ これまでの各学科あるいは研究生で印象に残ったことを教えてください。

鈴木：もともと歴史が好きで、文学歴史学科に



入学しましたが、日本史のI先生の授業にとっても興味をいただき、先生が園田を去られてからも各地で開催される公開講演会には出かけて受講しています。

十河：特に印象に残ったことはありません。毎年毎年新しい経験があるのでそれで精一杯でした。

▶ 園田シニア専修コースで、特に気に入っておられるところはどこでしょう

鈴木：リタイヤしてからが人生！待ちに待った悠々自適の生活が楽しめる場所と時間を提供していただいています。シニアにとって教育（きょういく）とところがある）教養（きょうよう）がある）は大切だと思っています。

十河：大学の設備が使用出来る事です。具体的には学食や図書館等です。

▶ 履修以外のクラス・クラブ活動への取り組みはいかがでしょう。

鈴木：入学以来クラスメイト、クラブ活動と多くの方と知り合い、別れがありました。現在も文歴（いちご会）で8名、国際（17期）で6名、テニスクラブで16名の方が在籍されており、親しくさせていただいています

十河：クラブ活動は同じ趣味の集まりなので、会話も弾み楽しいです。取り組みと言われて

も…、先輩方についてだけです。

▶ 園田シニア専修コースでのやりがい・楽しみについて教えてください。

鈴木：シニアの人生、古くは「盆栽いじり」から「蕎麦打ち」「陶芸」が定番でした。「マズローの欲求階層」の「自己実現欲求」で、自分のために何かを求める、それが私にとっての園田での生涯学習ではないかと思っています。

十河：やりがいはありませんが、園田シニアに通うこと自体が楽しみです。学校に來ればクラスメイトやクラブメイトに会えて話が出来るので、僕にとってそれが楽しみなんです。

▶ シニア専修生・研究生の方に特に伝えたいことはどんなことでしょう。

鈴木：シニアは色々な経験や豊富な知識を持った方が多いです。しかし人生ひとそれぞれ、自分なりの自分に合った内容で受講を考えていけばと思います。シニアにとって、過去にとらわれないのが一番です。

十河：特にありませんが、「やりたいことがあればやってみたら」ということだけです。

▶ 3学科目に在籍中のチャレンジャーの 2 人ですが、2 カ月が過ぎて感じることはありますか。

十河：情報学科は皆さんが思っている以上に難しいことはないと思います。何とか授業についていっていますから。

鈴木：昨年の 12 月頃に情報学科の「お試し」があって、その時は 5 人いたんですが、その後の説明会になると自分 1 人になったんです。授業についていけるかと、不安になったんですが、新年度になってみると 17 人で、ホッとしたとい

うか、やる気のある人がいっぱいいたんですよ。宿題は家でして、水曜日に学校に来てからデータを提出しています。情報の教室を授業以外でも使えるのは、いいことです。

十河：情報学科に入った当初は戸惑いがありました。それは、クラス委員がいなくてみんなと話せる場がないことです。みんな一生懸命パソコンに向かっていて、聞きたいことや話したいことがあっても、なかなか話しかけられない。自分は、一人でいるのはわりと平気だけど、人間関係を築いていくことも要るかなと思っています。特に、解らないときにどうしたらいいかなと思うし、周りの人もそんな時があるように思います。

鈴木：以前の 2 つの学科に比べたら、情報の授業は集中して聞かないと解らなくなるとしています。これまで我流でパソコンの操作をしてきたけれど、教科書の手順どおりにやっています。それには理由があるはずですから。

鈴木・十河：新しいことを学びながら、自分なりの目標に向かって楽しく情報学科で過ごしたいと思っています。

▶ その他学校への要望も含め、ご意見などがあればお願いします。

鈴木：3 年後には卒業を迎えます。それまでに、人生 100 年時代に向けた新たな「シニアのための学科（食生活、健康維持など）」の新設をお願いしたいと思います。

十河：肺検診は学校内の検診を利用できるようにして欲しいです。

写真下「基礎演習 I」の授業が始まる 30 分前に 544 教室に伺うと、皆さんパソコンに

向かって、課題に集中していました。今年の情報学科 1 年生は 17 名です。



宇宙に最も近い種子島

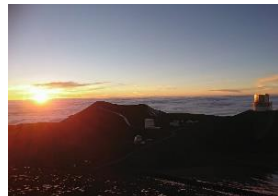
情報学科 1 年 鈴木 好夫

昔から旅行が好きで退職したら行ってみたい、見てみたい所がいくつかありました。

1、北極圏での「オーロラ」



2、ハワイ島「スバル天文台からの夕日」



3、種子島での「ロケット打上げ」



☆ 宇宙に最も近い種子島 ☆

種子島宇宙センターはロケット打上げ射場として昭和 44 年 10 月に建設が開始されました。

ロケットの打上げ射場にはいくつかの条件があります。バスガイドさんから修学旅行のバスでよくクイズにされている問題と聞きました。

- 一赤道に近い位置 (打上げに自転の遠心力大)
- 一南東に海がある (破片落下場所に大量の水)
- 一気候が温暖である (種子島の年間気温 15 度)

このようないくつかの条件により種子島に決まりましたが、なぜ沖縄でなかったのか、沖縄が返還されたのは昭和 47 年 5 月でした。

🚀 ロケット打上げの見学 🚀

種子島ではロケットの打上げが発表されると、当然ながらホテル、交通機関の予約は満員となります。仕方がなく旅行社による鹿児島からのツアーがあり、それに参加することになります。

🚀 H2A-F41 🚀

打上げ予定日、令和 2 年 1 月 27 日。2 泊 3 日の観光付ツアー予約。



- ・ 1 日目、種子島内の名所を観光。
- ・ 2 日目、天候不良で打上げ 1 日延期となる。
- ・ 3 日目、施設の設備の不良で打上げが中止。後日、リベンジツアーの募集がありましたが、新型コロナ感染拡大であったため申込みをせず、41 号機は 2 月 9 日に打上げが成功しました。

🚀 H2A-F42～F45 🚀

新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言により旅行自粛でツアーの開催はありませんでした。

🚀 H2A-F46 🚀

打上げ予定日、令和 5 年 1 月 25 日

1 泊 2 日の弾丸ツアーの募集があり予約。寒波の影響で 1 日延期となり、打上げの見学ができないため、出発前日にツアーをキャンセル。46 号機は翌 26 日に打上げが成功しました。

🚀 H3-TF1 🚀

打上げ予定日、令和 5 年 2 月 15 日



1 泊 2 日の弾丸ツアーの募集がありましたが、すでに H2A の予約をしていたため申込みをしていませんでした。打上げが 2 日延期され、ツアーも再募集となり、1 泊 2 日の弾丸ツアーを予約。当日、鹿児島港に到着も、再延期の連絡で、ツアーをキャンセルして帰阪。1 号機は 2 月 17 日に第 1 段目着火後の異常により打上げが中止。3 週間後の 3 月 7 日に再打上げされましたが、第 2 段目が着火せず失敗 (指令破壊) となりました。

🚀 H2A-F47 🚀

打上げ予定日、令和 5 年 8 月 26 日。1 泊 2 日の弾丸ツアーを予約。



天候悪化で 27 日に延期、前日泊が必要な日帰りツアーの再募集を予約。天候悪化で 28 日に再延期、日帰りツアーの再々募集を予約。当日打上げ見学場所の公園に到着も、打上げ予定直前の 30 分前に上空が強風で中止。

47 号機は 9 月 7 日に打上げが成功し、搭載されていた月面探査機は半年後の今年 1 月 20 日に月面着陸に無事成功しました。

★ 続・リベンジ種子島 ★

昨年末、半年ぶりにロケット打上げの発表があり、ツアーの募集がありました。体調を悪くしていて申し込みをしていませんでした。

✈ H2A-F48 ✈

打上げ予定日、令和6年1月11日

打上げが1日延期となり、1泊2日

のツアーが再募集ありましたが即満席で、キャンセルを待ち続けて、予約確保ができました。

・1日目、鹿児島港集合が午前7時のため前日に鹿児島入りして港近くのホテルに前泊。



・2日目、今回は種子島への高速船の予約が確保出来た人数分だけで、バス1台に僅か11名という少人数のツアーでした。すでに高速船は、JAXAと関連企業の関係者、そして半年前から予約の東京からの修学旅行生で満席でした。



午前中、打上げ見学までに時間があるので、鉄砲伝来の地・種子島の鉄砲館に立ち寄りしました。

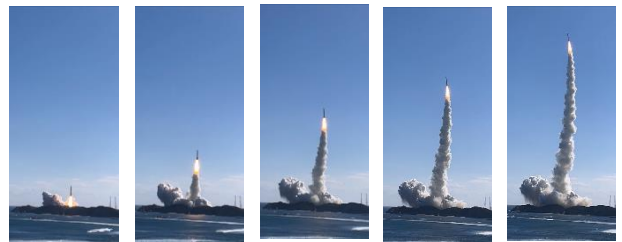


打上げ見学の恵美之江公園には予定より1時間以上早く到着したのですが、すでに多くの見学者が撮影の絶好場所に集まっていました。



1月12日、授業のある金曜日の午後、クラスメイトには当然休むことを伝えていましたが、授業中にも関わらず、打上げ時刻前に「まだですか?」と期待メールが来ました。

予定時刻10分程前からカウントダウンが始まり、3・2・1・0・で、ロケットは轟音とともに打上げられ、真青な大空に白い煙を残して消えていきました。今年は辰年、大空に昇る姿は「龍の如く」感動でした。直後にグループメールで動画を送りましたが授業中によかったのでしょうか。(Y先生すみませんでした)



・3日目、前日の打上げの余韻が残る、宇宙センターに行きました。JAXA係員の案内で、日頃見ることのないロケットエンジン(H2A-F7)の実物や打上げ後の指令室(撮影禁止)をも見学させていただきました。



初めて種子島を訪れてから苦節4年、ファミリーからは「あんたが行くから上がらんや」とも言われたりもしました。ロケットの打上げには天候が大きく左右し延期中止はあるものでした。今回は運がよかったのでしょうか、この目、耳、身体で感じた感動を胸に帰阪しました。



テレビドラマ「下町ロケット」の最後のシーン、阿部寛の「やっぱりいいよな、ロケットは!」

85歳までの風景—その2

85歳を通過

研究生 中村 米三郎

7. 社会人時代

昭和37年4月、銀行に就職しました。

(1) 営業店

入行して3年半は営業店勤務で、最初の1年は貸付係であとの2年半は渉外係でした。

貸付係では、貸付利息の計算をしましたが、最初は加算器で計算していましたが、遅いので係長から「まだか!」とよく催促されますので、ソロバンで計算しました。

渉外係では、私は商店街や個人商店の担当でした。非常に人間味のある仕事だったので楽しかったです。例えば、内勤の女性から価格が半額程度になるので、昼食のおかずをよく頼まれました。

(2) コンピュータセンター

昭和40年7月に異動して、最初は開発部門でコンピュータの導入、プログラムの作成、各種バッチシステムの開発、第一次オンラインシステム(昭和45年8月に稼働)、第二次オンラインシステム(昭和51年11月に稼働)、第三次オンラインシステム(昭和59年1月に稼働)などの構築を行いました。

それ以後、平成10年9月の定年退職まで運用部門を担当しました。

8. 家庭生活

友だちの姉さんの紹介で鎌倉に住んでいる家内とお見合いして、昭和39年10月に結婚をしました。家内は、10月1日に東海道新幹線が開通した日に大阪にきました。10月8日に大阪玉造にある玉造教会で式をあげました。



電算機を操作する筆者



第三次システム構築中の筆者



結婚式を挙げた玉造教会

東京オリンピックの開会式は新婚旅行中に阿蘇で見ました。昭和40年11月に長男が、昭和43年3月に長女が誕生しました。

長男が1歳の時親子3人で車で旅に行きましたが、長男がお腹を空かして泣き出したので、伯備線の山の中の駅で駅員さんにお湯を頂いてミルクを飲ませたことや、長男と長女を連れて親子4名で小豆島に行き、小豆島で取ってきた蟹をバケツに入れて新幹線に乗り、家まで持ち帰ったこと等を懐かしく思い出します。

昭和44年12月長男が幼稚園に入る時に、豊中市蛍池から川西市の能勢電車沿線の畦野に移りマイハウスを新築しました。長女が幼稚園に入ってから、マイカーを買ったこともあり、マイカーで夏休みには大体4泊5日程度の懐かしい思い出がいっぱい詰まっている旅に、4人で出かけるのが恒例になりました。

長女の一家が芦屋市に家を新築しましたので、私達も平成20年10月、39年ほど住んでいた川西市から芦屋市の長女の近くに引越しました。

9. ボランティア時代

平成10年10月から、通勤・勤務等の時間的拘束がない自由人になりました。

平成12年兵庫県が実施した「シニア仕事創造塾」を受講した者が集まってボランティア団体

「マウス・フレンズー21(MF21)(平成12年12月)」、「SITA-K(平成19年12月)」を設立し代表になりました。グループ員

は15名程度です。MF21の時、パソコン教室の授業の様子をNHKの「おはよう関西」で放送されました。

活動目標は「パソコンを通じて地域社会に貢献して、自身の生き甲斐を求める」でした。また、実績は「平成13年2月か



初代のマイカー



NHK「おはよう関西」で放送



SITA-Kの授業風景

らパソコン教室を神戸、川西、芦屋等で開催し、受講者総数約 1000 名」になりました。

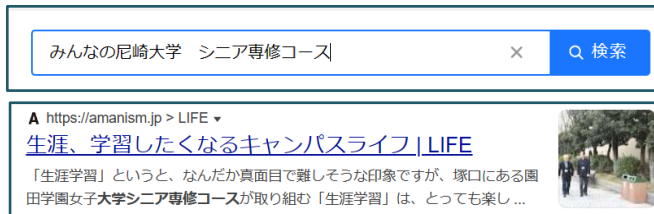
平成 20 年 3 月兵庫県が刊行された小冊子『60 歳からの見本市 (60 ページ)』で「第 2 の青春を楽しむ S I T A - K」として紹介されました。



10. シニア専修コース時代

平成 22 年 4 月、友人から「シニア専修コース」を紹介して頂き入学しました。

「シニア専修コース」がどういう所かは、皆さんはよくご存じですが、尼崎市が行っている「みんなの尼崎大学」から、私と徳田さん（情報学科研究生）がインタビューを受け、それがホームページになっています。



園田学園のキャンパスを散策する徳田さんと筆者
(ホームページから)

(1) 国際文化学科

研究生になっても、河合先生の講座をとり、フィールドワークを中心に活動しました。

- ・大阪コリアタウン（韓国を理解する）
- ・石切、生駒宝山寺周辺（聖地生駒山）
- ・宝塚韓寺・最明寺川流域（ハングル語の世界）
- ・信貴山朝護孫子寺（毘沙門天と多聞天）

そこから得た資料を纏めて論文にし、学期末近くに行われる河

合先生の研究発表会で報告して、

『旅とフィールドワーク』という論文集に掲載



コリアタウン百済門を通るだんじり

して頂けます。また、私が、個人的に調べたレポートを「けやき便り 18 号」に「毘沙門天の

別称多聞天に関する考察」として投稿しています。

(2) クラブ活動

①「けやき便り」編集クラブ

平成 22 年 5 月設立。編集などの経験がないので固辞したのですが、当時の所長のたつての依頼で設立しました。編集員が少ない、原稿が足りないと問題ばかりが起りました。平成 22 年 10 月に創刊号を発刊しました。

②デジカメクラブ（現 I T を楽しむ会）

平成 22 年 5 月設立。テキストを自作して、そのテキストでパソコン講座を行いました。

③テニス同好会（現テニスクラブ）

平成 23 年 10 月設立。テニスの名門「園田学園」でテニスをしたい、という思いで、4 名の仲間とクラブを設立しました。

④遊歩クラブ

平成 26 年 4 月設立。「楽しんで、学んで、歩いて 仲間づくり」をモットーに設立しました。ニーズの高いクラブで、会員は 100 名を越し、例会は 72 回行っています。

11. 85 歳を通過

85 歳までの風景を振り返ってきましたが、令和 4 年 9 月、10 数年ぶりに「人間ドック」を受け大病が見つかり、1 年間休学しました。医療関係者をはじめ家族や多くの方々のお蔭で健康を取り戻すことができました。

2023 年 9 月、85 歳を通過しました。10 月からはシニア専修コースを再開します。小中高大で 16 年。来年 4 月シニア専修コースも 16 年。

また、来年、ダイヤモンド婚式を迎えます。これまで何不自由なく、私はパソコンに、家内はフルートとオカリナにいそしむことができたのは、非常に有難く、感謝しています。今後、どのような風景に出会っても、自然に振舞っていきたくて願っています。

願わくは これから出会う 風景は
雨風吹けど 青い山脈

（「青い山脈」作曲は大阪生まれの服部良一氏ですが、「六甲山」の山並みを見て曲想を得られたそうです）

よもやま話の会報告

ひと・こと・ものにであう

研究生 三木 静子

26回

12月13日



けやき祭にて「福崎町」ブースの案内をきっかけに、学園バスを利用して30名で、兵庫県神崎郡福崎町を訪ねました。

町役場の地域振興課の方より「町おこしの取り組み」について説明がありました。

柳田國男の自伝的回想録をまとめた『故郷七十年』をヒントに妖怪「ガジロウ」が誕生し、「座敷童子」や「一つ目小僧」など21体の妖怪ベンチが町内に設置されてからは、多くの観光客が訪れるようになったそうです。妖怪は小学生に人気で、妖怪への興味から民俗学へと関心を広げていってくれたらと話されていました。

午後は、柳田國男・松岡家記念館で職員の説明の後、「松岡五兄弟を育てた夫婦 松岡操・たけ展」を観覧しました。貧しさの中でも柳田國男をはじめ、5人の俊英を育て上げた両親の懸命な姿勢や、兄弟たちの両親への思いなどが感じ取られ胸に響きました。

神崎郡歴史民俗資料館では、昭和24~43年に発刊された「神崎タイムス」の福崎・広告編を観覧しました。見合い相手の募集や性病治療の医院の広告が印象的で、当時の世相を垣間見た感じがしました。

辻川山公園では、池の中から突如泡とともに現れた「ガジロウ」や、突然扉が開き現れた「逆さ天狗」に一同驚きの声が上がりました。

柳田國男のゆかりの地を、散策しました。「日本一小さい家」と自ら話し、民俗学の出発点でもあった生家は、街道沿いから記念館横に移築されていました。小春日和の中、福崎町の取り組みや柳田國男の『故郷七十年』のフィールドワークは、充実した学びになりました。

27回

1月24日

「戦略資源としての蛍石」の報告

木田 正信さん(研究生)

「中国産蛍石をめぐる近代軍需産業の発展戦略」の論文を書かれた木田さんの話を聞きました。アルミニウム精錬に必要な蛍石が採れる中国浙江省武義県を集中的に侵略した日本軍の話でした。「蛍石」がアルミニウム精錬に必要で、飛行機の軽量化に必須な戦略物資だった事を示す多くの資料もありました。現在では、半導体の基盤洗浄に必須の鉱物であるだけに、国際政治・紛争との関わりがあるとの報告でした。また、園田学園シニア専修コースでの先生や学びとのあいだが、強い刺激になり論文を書くに至ったと熱く語ってくれました。

福崎町「バスツアー」の報告

大林 泰子さん(研究生)

情報学科研究生の大林さんから、「柳田國男・河童『ガジロウ』で町おこしする福崎町バスツアー」の報告が、ありました。

PhotoStageで編集され、パソコンからナレーションに載せて画像と音楽が流れるという素敵な発表で

した。福崎町の充実した一日がよみがえり、出席者と再度共有することができました。



一つ目小僧

28回

2月21日



近松研究所の坂本先生から、近松門左衛門の出自や作者としての活動や竹本義太夫など関連した人物について、『曾根崎心中』上演のいきさつや「世話物・世話浄瑠璃」のジャンルを切りひらいたこと、『曾根崎心中』の大ヒットで道頓堀にあった竹本座の借金を返済したこと、『国姓爺合戦』の足かけ3年の大ヒットなどについて詳しい資料を見ながらお話を聞きました。

大会議室で坂本先生のお話を聞いた後「近松研究所」を訪れ、所蔵の資料や展示物、閲覧室



の利用などについて解説・紹介をしていただきました。

29回

6月6日

「近松の里」フィールドワーク

近松語り部の会ボランティアガイド
浅井啓彦さん・山本恵子さん

阪急塚口駅前から近松公園にかけての近松ロードを通り、近松のモニュメントを見学。その後、「近松記念館」と近松の墓所がある廣済寺を中心に、語り部さんのガイドで見学しました。記念館には、近松の関連資料が満載。また語り部さんのユーモア交えた解説に、近松門左衛門が近い人になりました。

●参加案内をご希望の方は、080-9359-7979 か、
katu1122nibu1607@gmail.com 河田まで

公開講座 楽しいコーラス

研究生 橋本 秀明

定年退職後、何か地元でできるものはないかと探していたところ、近くの園田学園女子大学の生涯学習公開講座「楽しいコーラス」を見つけ、早速受講。2007年度から現在にいたるまで継続。コロナ禍で3年間は休講となったが昨年度から開講。

受講当初は、歌詞カードのみで楽譜がないのに驚き。アンケートで楽譜要求。またコーラスとは名ばかりで、すべて斉唱（ユニゾン）。何時からパート（ソプラノ・アルト）に分かれて歌うようになったのかの記憶がないが、今はどの曲も2部構成で歌っている。男性はアルトパート。

受講生は殆ど女性。男性は少数で現在2名。人数は20～30名。昨年度は極端に少なく10名余り。今年前期は20名。本講座を始めて受講する女性が8名。講座の終わりにはミニコンサートと一緒に歌いましょうの会があります（下のチラシ参照）。ぜひご参加ください。

発表曲は、「群青」以下未定。「群青」とは谷村新司の曲ではなく、東北大震災で被害を受けた福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生作詞と先生による構成・作曲。のちに著名な信長貴富氏による編曲。



参考までに昨年度後期の曲を紹介。「見上げてごらん夜の星を」「少年時代」「明日があるさ」「かあさんの歌」「石ころの歌」「冬の夜」。

アンコール曲は「大空と大地の中で」。

私の暇つぶし

「図形を解く楽しさ」

文学歴史学科 2 年 石谷 和彦

私の趣味というか、暇つぶしの一つとして表題の「図形問題を解く」ということがある。

始めたのはここ数年のことで、YouTube を観て暇つぶしをしている中で、塾講師による中学受験(=小学生でも解ける)算数の問題を見て、解いてみたいと思ったのである。

私自身、理系とは縁がなく、芸術寄りの人生であったため、今まで数学や算数に興味を持つことがなく、解こうと思ったこともないのであるが、一問一問と解いて行くうちに、その合理性と解けたときの爽快感に、大いにハマったのである。

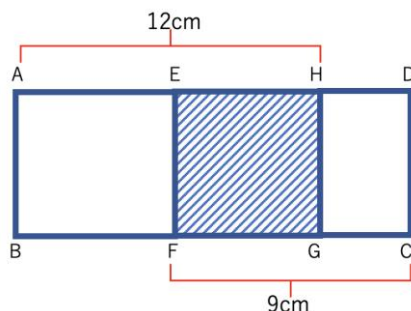
当学シニア専修コースの受講生の皆さんの中には、かつて理数系専攻で数学の問題をいっぱいこなしていた方もおられ、全くもって僭越ではあるが、皆さんに興味を持ち、頭を柔らかくしていただきたく、いくつかの問題をご紹介します次第である。

【例題 1】

まずは、長さを求める問題である。

これは 2002 年、ジュニア算数オリンピックのトライアル問題である。

「四角形 EFGH が正方形のとき、長方形 ABCD の周りの長さを求めてください。」



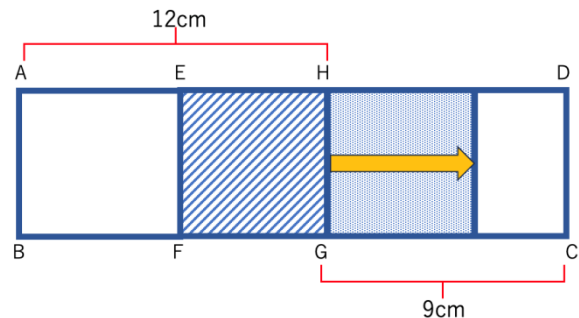
一見簡単そうに見えるが、正方形 EFGH の一辺の長さが判明しないため、すぐには答えを導き出せない。

それでは、このようにすればどうだろうか。

12cm と 9cm が重ならないところまで左右に伸ばすと、横の長さは $12+9$ で 21cm とわかる。縦は……と思いがちだが、実は「正方形の四辺の長さは同じ」ということから、横に伸びた長さは縦の長さでもあるので、答えとしては

$$(12+9) \times 2 = 42 \quad \underline{42\text{cm}}$$

が設問の長方形の外周となる。



計算式で表すと、正方形の一辺の長さを(ア)とすると、

$$(AH+HD-\text{ア}) \times 2 + \text{ア} \times 2 =$$

横の長さ上下 + 縦の長さ左右

$$(AH+HD) \times 2 - \text{ア} \times 2 + \text{ア} \times 2 =$$

$$(AH+HD) \times 2 - \cancel{\text{ア} \times 2} + \cancel{\text{ア} \times 2} =$$

$$(12+9) \times 2 = 42 \quad \underline{42\text{cm}}$$

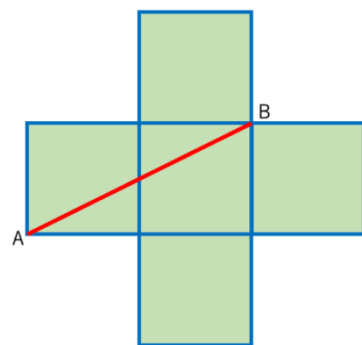
と答えを導き出せるのである。

【例題 2】

次は面積を求める問題である。

これは 2015 年、土浦日本大学中学の入試問題である。

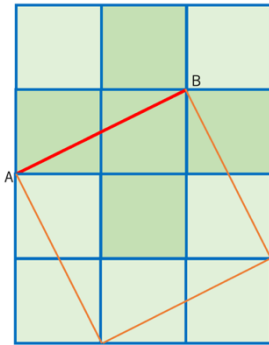
「図は同じ大きさの正方形を 5 つ並べたものです。直線 AB の長さが 10cm のとき、正方形一つ分の面積を求めなさい。」



直線の長さが分かっても、正方形の一辺が分からないし、小学生は三平方の定理は使えない

し、ということになる。

それでは、こうしてみればどうだろう。



正方形を上図のように追加して、対応する形で線を加えた場合、説明は省くが赤い四角は正方形となる。赤い線は正方形 2 個を半分に割っている。その赤い線の内側には三角形 4 個と正方形 1 個が含まれており、三角形 1 個は正方形 1 個と面積が同じであるので、合計 5 個分の正方形を含むこととなる。

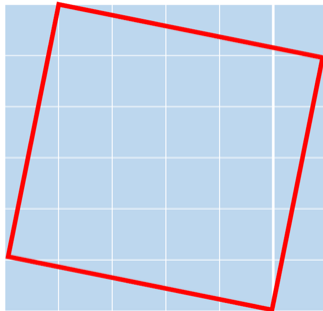
赤い線は長さ 10cm であるため、赤い正方形の面積は、一辺×一辺の

$$10 \times 10 = 100 \text{ (cm}^2\text{)}$$

であり、小さな正方形の面積 5 個分の面積であるため、

$$100 \div 5 = 20 \quad \underline{20\text{cm}^2}$$

が答えとなる。



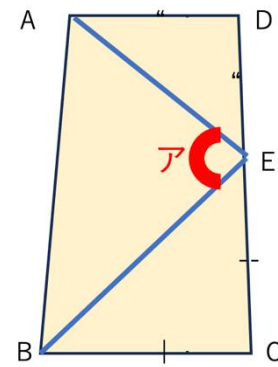
この方法は、上図のように正方形の数が増えても同様なので、いずれ役に立つかも知れない。

【例題 3】

最後は角度を求める問題である。

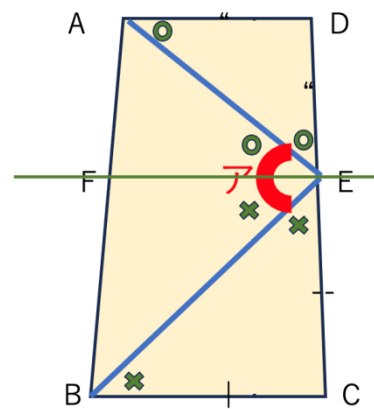
これは 2017 年、城北中学校の改題である。

「図の四角形 ABCD は AD と BC が平行な台形で、DA と DE、CE と CB の長さがそれぞれ等しい。角アの大きさを求めよ」



これは分かる角度が何もなく、今ある情報から答えを導きださなければならないもので、一本の補助線がキーとなる。

ここで補助線を加えて、整理してみると、



$\triangle ADE$ は二等辺三角形であるため、 $\angle DAE$ と $\angle DEA$ は同じで○と記号づけし、同様に $\triangle BCE$ には×と記号づけする。上底と下底に平行で E を通る補助線 FE を引くと、錯角（最近では Z 角と呼ぶ）の関係で、 $\angle AEF$ は○であり $\angle BEF$ は×となる。このとき直線 DC 上は○二つと×二つで構成されており、

$$180 = \bigcirc \times 2 + \times \times 2 = (\bigcirc + \times) \times 2$$

の式が成り立つため、 $\angle A$ は

$$\bigcirc + \times = 90 \quad \text{答え} \quad \underline{90^\circ}$$

と分かる。

いかがでしたか。説明が下手で分かりにくかったかもしれませんが、続けていくうちに講師より上手い解法が出てきたりします。

頭の体操でボケ防止になるとともに、お孫さん（ひ孫さんかも）などに訊かれたときに、スラスラと答えられる、カッコいいお爺ちゃんお婆ちゃんになれます。頑張ってみませんか。

ジョゼ・サラマーゴ作

『白の闇』～コロナ禍に重ねて～

研究生 田中 祐二

「NHK E テレ」が放送している教養番組「100分 de 名著」を毎週必ず録画をして見ております。毎回古今東西の名著を題材に、その作品の奥深さを分かりやすく解説するというもので、私にとって“お気に入り”番組の一つです。

2022年1月に「コロナ禍の今、読むべき名著」をテーマに4人の論者が、選んだ名著を持ち寄り解説するという内容のスペシャル版が放送されました。その時に作家の高橋源一郎さんが「唯一無二の傑作」と絶賛したのが、ポルトガルのノーベル賞作家ジョゼ・サラマーゴの『白の闇』（1995年初刊）というパンデミック（感染爆発）を題材にした小説でした。早速、2001年発行の単行本（日本放送出版協会）を地元の図書館で借りて読んだところ、かなりの衝撃を受け、自分にとって忘れられない作品となりました。

突然、目の前が真っ白になる原因不明の感染症が次々と広がっていき、事態を重く見た政府が失明者と感染者を強制的に隔離し始める、という物語ですが、まず驚いたのは文体です。固有名詞のない登場人物、改行どころか鉤括弧もなく、誰が話しているのか、それともこれは説明なのか会話なのか、それすら考えながら読む必要がありました。読み始めた時は、その特殊さに読みづらさを感じましたが、不思議なことに私自身がその文体に“感染”してしまったのか、途中からそれがほとんど気にならなくなり、どんどんページがめくれるようになりました。そしてまたその独特の文体から感染症に追い詰められた人間の姿がリアルに浮かび上がってくるのを感じました。読んでいて面白いと思ったのは、ひとりだけなぜか失明をしない

女性が失明者たちよりも地獄を味わうという事でした。家中・町中にあふれる阿鼻叫喚な世界（例えば排泄物をそこいらに垂れ流す人々の姿）が見えるからです。目によって尊厳を保つことができ、見える事によって人生が成り立っているのを痛感します。インフラは止まり、食材を求めて奪い合いが始まり、そこかしこ死体やゴミや排泄物が溢れる想像を絶する世界となり、土砂降りの雨の中で体の汚れを流すシーンが強烈な印象として残ります。

この本のテーマは、病の原因がどうであるとか、どのように解決していくかということではなく、「見えない世界」で人間が尊厳をもって生きることが出来るのか否か、というところだと思います。社会秩序が徐々に崩壊していく中で、人間はこんなにも理性を失ってしまうのかと恐ろしくなります。

最後は皆が徐々に視力を取り戻す中で、唯一失明しなかった女性の言葉が印象的です。「わたしたちは目が見えなくなったんじゃない。わたしたちは目が見えないのよ。・・・」（356ページ・日本放送協会）

目が見える（見えない）とはどういうことなのか、について考えざるを得ない圧巻のラストです。このラストシーンを読みながら、「人間」としての尊厳を持ち続ける方法は、希望を捨てないことかもしれないと感じました。目が見えなくなることが“盲目”ではなくて、希望を失うことが“盲目”なのではと、そう思った次第です。

「もしわれわれが全員失明したらどうなる？」と問われた著者のサラマーゴが「だけど、われわれは皆盲目じゃないか！」と答えた

と、訳者あとがきに書かれていました。現在の社会・国家の無責任さ、不正に対して見て見ぬふりをする人々の姿勢がある意味“盲目”だと言いたかったのでしょうか。この『白の闇』が架空上の説というよりは、現実問題だと考えるのも十分な作品だと思います。



パンデミックを題材にした小説なので、どうしてもコロナ禍に重ねてしまいます。こちらの感染症は目が見えないことで起きるのですが、私たちが体験したウイルスという目に見えないものが引き起こすパニックと差別、隔離等といった事態には恐ろしいものがあり、人の本質がやはり見られました。この本を読んでから、自分自身、何か「見えているのに見ていない（見ようとしないう）」を再考し続けています。

そう言えばパンデミックを題材にした映画で印象に残った作品が2本あります。

① 感染列島 (2009年・日本映画)

新型ウイルスの猛威で危機にさらされる日本社会の様相を、ある救命救急医の姿を通して描かれるパニックムービーです。医療崩壊の恐怖がとてもしリアルに描かれており、個人的には観ていて緊張感もあり面白かったです。コロナ禍になる前に鑑賞しましたが、まさか似たようなことになるとは思いませんでした。



② コンテイジョン (2011年・アメリカ映画)

突然、世界中に蔓延していく謎のウイルスの恐怖を描くサスペンスドラマです。

ウイルスの怖さや感染の拡大過程がとてもしリアルに描かれており、コロナを含めた新型ウイルスの恐ろしさを改めて感じます。この映画を観て体調不良になりました。

能登半島地震が正月に起こり、不穏な出だしの2024年となりました。

自身の健康と天変地異にさらされない事、その基本の上に日々の幸福があるのだと、思い知らされた次第です。

小説『お登勢』

淡路島から未開の地北海道への 人生の旅路

国際文化学科2年 山下 信行

私は時代小説が好きである。時代小説の作家と言えば、山本周五郎、池波正太郎、司馬遼太郎などが有名だが、私は特に藤沢周平が好きで彼のほとんどの著作を読んでおり、二度三度と繰り返し読んだ作品もある。小説の舞台“海坂藩”のモデルと言われている彼の故郷山形県鶴岡市には私はこれまで2回旅行して現地の風土や食べ物を味わってきた。

時代小説好きの一環で私はテレビでも時代劇をよく見る。毎週日曜日の朝6時台にNHK総合テレビで過去の時代劇の再放送を行っているが、昨年の秋から冬にかけて「お登勢」というドラマが放送された。原作は作家船山馨が1968年から毎日新聞に連載して発表した小説、当時は好評だったようでこれを元にテレビドラマが複数作られ、また舞台化もされている。私はこの小説のことは知らなかったが、このドラマが結構面白く、計12話のドラマを全て鑑賞した。ドラマの主人公「お登勢」を若い頃の女優沢口靖子が演じており、奉公先の武家の主人役として橋爪功などが出演している。

このドラマは幕末期に淡路島の僻村で育った娘お登勢が洲本の徳島藩士の家に奉公に出て、当家の娘“志津”やほのかな恋心を寄せる徳島藩の洲本城代家老稲田家の家士“津田貢”らと共に幕末から明治維新にかけての徳島本

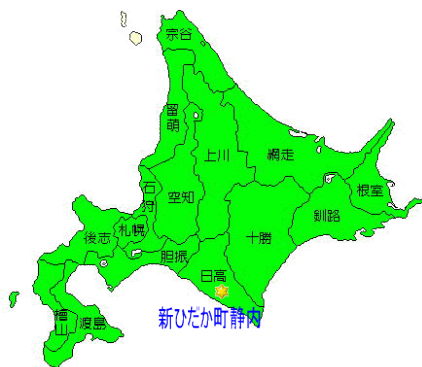


藩と稲田家の争い「庚午事変(稲田騒動)」に巻き込まれての人間模様を描いている。

幕末の動乱期に徳島本藩は佐幕側であったが、徳島藩の筆頭家老で淡路島の洲本城代を務める稲田家は時流を見て尊皇派に付く。江戸幕府が倒れて明治政府が版籍奉還、廃藩置県を進めようとする中で、稲田家側は倒幕活動への明治政府からの論功行賞を期待して徳島藩からの分藩独立を画策するが、これに激怒した徳島本藩の家臣達が淡路島の稲田家を襲撃し、お登勢も巻き込まれてしまう。この「稲田騒動」の結末は、徳島藩側の騒動の首謀者は処刑や遠島などの処分を受け、一方の稲田家側も士族としての存続を認める代わりに北海道の静内への集団移住を命じられるという言わば明治政府による喧嘩両成敗となった。そしてドラマはお登勢が長年の思いを遂げて、この一連の騒動で心身共に傷ついた津田貢と夫婦となり、共に希望の大地北海道に旅立つところで終わる。

私は原作が読みたくなり本を探したが既に絶版になっていたため神戸市中央図書館で「お登勢」と「続お登勢」の2編を借りて読むことが出来た。テレビドラマで放映されたのは『お登勢』の中の淡路島編の部分までで、残り『続お登勢』は北海道編となっている。

小説の後半部分では希望の新天地だった北海道の予想以上の過酷な自然環境の中でお登勢は歯を食いしばって頑張るが、夫の貢はこれに耐えることが出来ず妻を裏切る形で不測の死を遂げてしまう。一人残されてしまったお登勢であったが、一緒に移住した稲田家の人々や新たな家族たちと共に北海道の大地で幾多の困難に直面しながらもたくましく生きていく姿が描かれていた。私はテレビドラマでは放送されなかったこの北



海道編の方が淡路島編よりさらに面白かった。

明治維新当時の北海道は未開で不毛の大地だったが、北から侵攻してくるロシアに備える必要もあり、北海道の開拓は明治維新政府にとっても大きな課題だった。このため、屯田兵制度を創設するとともに失業した士族の救済を名目に道内の各地に彼らを送り込んで原野の開拓にあたらせた。

この小説の中では困窮極まる開拓者達の日々の厳しい生活、江戸幕府から薩長閥が牛耳る明治政府に代わっただけの相変わらずの上からの民衆支配の実態や先住民族アイヌへの差別や過酷な政策なども背景として描かれており、松山利夫先生の「多文化共生論」の授業「北海道開拓とアイヌ」の章で学んだこととも合わせて興味深く読むことができた。

江戸時代は徳島藩の支配下にあった淡路島が「稲田騒動」の收拾の過程で廃藩置県の際に兵庫県に編入されたことも初めて知った。もし「稲田騒動」が起きなかったら但馬・摂津・播磨・丹波と共に「兵庫五国」の一つに数えられる淡路は徳島県のままだった可能性があったということだろう。

お登勢が巻き込まれた「稲田騒動」は吉永小百合が主演した映画「北の零年」のモデルとしても描かれている。旧静内町(現在の北海道新ひだか町)は明治維新时期にこの地に移住してきた開拓民たちのふるさとである兵庫県洲本市・西淡町、徳島県脇町の3都市と姉妹都市提携を結んでいる。また、淡路島の洲本市にはテレビドラマが放送された後にお登勢の銅像が建てられたとのことであり、いずれ見に行こうと思っている。



淡路島洲本市のお登勢の像

松本～奥飛騨～高山

冬紀行

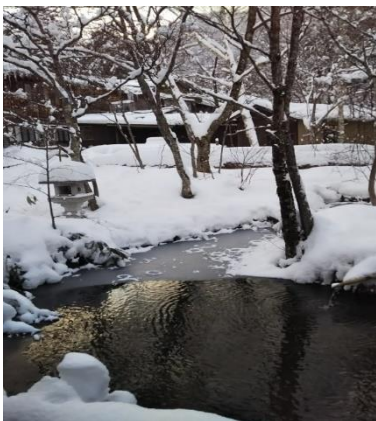
研究生 小笠原 昭博

3月4日 ギター生産日本一の街松本に集合。



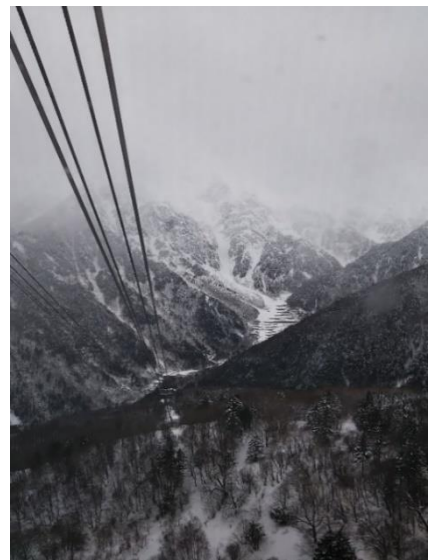
午後、松本バスターミナルからアルピコ交通高山行に乗車、乗客は我々4名、日本人夫婦1組、欧米人家族4人組&単身者2名の貸切り状態。

上高地の入口「新島々」を過ぎると、漸く山岳道路の登り坂となり雪景色に変わる。北アルプスの南端 焼岳（標高 2455m）の裾野を通る安房峠（標高 1790m）の真下を貫く安房トンネル（長さ 4370m 標高 1373m 長野県と岐阜県の県境を通り松本と高山をつなぐ、18年かけて 1997 年開通）を抜けると、そこは奥飛騨温泉郷の一番東にある平湯温泉（標高 1250m）辺り一面雪・雪・雪。平湯バスターミナル下車（松本より 1 時間 40 分）大温泉宿「ひらゆの森」泊。一泊 2 食付 11,000 円、料理も良くなりリーズナブルでお得な宿、雪に覆われた大露天風呂の湯ぶねをはしごし、暫し温泉三昧。



平湯温泉（ひらゆの森）

3月5日早朝、平湯バスターミナルから新穂高ロープウエー行のバスに乗車。途中、新平湯温泉～栃尾温泉を経由して新穂高温泉（標高 1117m）へ。新穂高ロープウエーで西穂高口（標高 2156m）へ上がるも降雪で視界不良、北アルプスの大パノラマは望めず早々に下山。やむなく新穂高温泉「中崎山荘」で日帰り入浴&昼食。



新穂高ロープウエーで西穂高口へ

午後、新穂高温泉から高山バスターミナル行濃飛バスに乗車（1 時間 40 分）、高山盆地に近づくと、いつしか雪は曇に変わる。

高山市の高台（標高 640m）にある「ホテルアソシア高山リゾート」泊、最上階（7 階）の大露天風呂からの北アルプスの眺望が自慢の宿、しかし吹雪のため眺望なく視界ゼロ。

3月6日 午前中、高山市の古い町並群を散策、飛騨牛カレー・にぎりを味わい午後帰路へ

今回は、雪はどっさり、温泉どっぷり、
山岳の大展望さっぱり、の旅でした。

占いについて

情報学科3年 田中 利二



占いとは、様々な手法を使って人の気持ちや性格、そして運勢や未来など、通常は直接知り得ない事柄について判断や解釈を行う行為、またはその手法を指します。このような未来や運勢を知りたいという欲求は、昔も今も変わらず存在します。古代から、様々な文化の中で体系化され、伝えられてきた占いや占術には、四柱推命、西洋占星術、タロット占い、風水などがあります。

古代ローマや古代ギリシャでは、いけにえの内臓の色を読み取る方法が用いられ、古代中国では獣骨を焼いてひび割れを占うなど、古風な手法もあります。これらの占いは、文化や宗教、祭りと密接に結びつきながら、人類の歴史の中で長い間、人々の興味を引きつけてきました。

古代の日本でも、鹿などの肩甲骨を焼いてそのひびの入り方で吉凶を占う方法が行われていました。古代の日本は、中国から多くの文化を取り入れており、その中には易や風水などの元となる陰陽五行の思想も含まれています。

陰陽五行の思想は、陰陽思想と五行思想の二つが合わされてきた思想です。陰陽思想は一切の万物は陰・陽の二気によって生じ、五行思想は“木・火・土・金・水”からなる五行が、その相互関係から作用する。その根本には、宇宙のあらゆる現象は生まれては消え、そして循環するという考えがあります。

占術は、色々な種類がありますが、『命(めい)、ト(ぼく)、相(そう)』の3つに分類されます。

命・ト・相

(1) 命(めい)

命術(命占)とは、宿命のことで、生年月日や場所など、不変的な情報をもとに占うもので、主に人間の全体運、一生の流れを推し量る占いです。推命とも呼ばれます。また相性なども見ます。

各種占いの中での的中率は最も高いものの一つです。短時間に起こることの判断は不得てです。この「命」が占いにおける大黒柱となります。東洋では「四柱推命」、西洋では「西洋占星術」が代表的です。

(2) ト(ぼく)

ト術(ト占)とは、比較的、短期間に起こることや日常的なことの、予測と状態を推測する占いです。依頼者にも鑑定士にもどのような結果がでるか分らない、天の意思を伺う占い方法です。

色々なことを占え、一番、使うことが多く、普段何気なく用いている「占い」という意味に最も近いものです。運命学で出た答えは、避ける事は難しいが、ト占術で出た答えは、それを予知すれば、避ける事が出来ます。

例えば、事業の成否、結婚の成就、病気の安否等。占う対象・占的を絞り、その吉凶を問います。

東洋では「易占」、西洋では「タロットカード」などが代表的です。一般的に、「当たるも八卦、当たらぬも八卦」と云われるのは、この易の事を指します。

(3) 相(そう)

相術(相占)とは、対象の物に現れた姿や形(外観)から将来を判断する観相学を指す占いです。

物がある形になるという事は、その理由があるはず。それなら形から理由も推測できるというのが「相」の特徴です。手相、人相、家相、墓相、印相、風水地理学が代表的です。姓名判断も名相と言い、この部類に含まれます。「相」は「形」なので、形を変えることで運気のアップが図られます。

完売しました

研究生 正井 美那子

そのカレーショップは2年程前私の家のすぐ近くにできた。10人も入れば満員になりそうなカウンターだけの小さなお店で“チキンカレー”という白い看板が出ている。駅からかなり離れたビル街なのに、こんなところにお店を出して大丈夫なのと思っていたら……。案の定、マスターらしい人がドア越しにぼんやりと見えるだけで、何日もの間お客さんが入っている気配がない。

一度そのマスターが自転車でお店に来るのを見たことがある。30代後半くらいでなかなか雰囲気がある人だ。それ以来そのカレーショップは私の気になるお店になった。

しかし、相変わらずいっこうにお客さんは入らない。近くに大きなカレーショップができた時には、お店が潰れるのは時間の問題だという気がしていた。

ところが、ある日お店の外に何人かの人が立っている。何とその時お店にはお客さんがいっぱい、立っている人たちは順番待ちをしていたのだ。それ以来、そういう光景をよく見るようになった。

ある日閉店にはまだ早すぎる時間にお店のシャッターが下りていたので、どうしたのだろうと思って近づいてみた。すると、そこには手書きで「完売しました。誠に申し訳ございません。」という貼り紙があり、その下には、「どういたしまして。また来ます。」と走り書きの文字があったのだ。

次の日、私は初めてそのカレーショップに行った。シンプルな店内にシンプルなメニュー。

チキンカレーだけのお店とあって、さすがに手作りの味がする。毎日のように店内を覗いていた私はマスターに妙な親しみを感じ、思い切って話しかけてみた。

「このお店、この頃すごい人気ですね。」

「ありがとうございます。おかげ様で。やっと軌道に乗ってきました。」

マスターははにかんだように笑った。ずっとこ

のお店がことが気になって、応援していたことを言おうかと思ったが、ちょっと気障っぽいので止めた。

今日も私はカレーショップの前を通る。お客さんがいっぱいの中には、「よし!」、お客さんがいない時には、「さっきまでは満員だったんだ。」と思いつつ……。

カウンターの向こうでは、あのマスターがチキンカレーを作り続けている。

光陰矢の如し

研究生 井上 聖明

私の手元に2013年4月入学後すぐに頂いた6月10日発行の第8号から23年11月24日発行の第29号まで22冊のけやき便りがあります。

先日何気なく開いてみましたが、よく考えたら私もすでに10年間も通学しているのですね。思い出がてらにあちこちページをめくってみますと、懐かしいお名前や、現在もずっとお付き合いして頂いている方もあり、各号の記事もいまだに新鮮な感じがしています。

私の初投稿は2014年6月発行の第10号で「縁ありて」の短い記事でした。(何かの縁でこの学園に集うことになった皆様、人生の大切な時間を積極的に楽しみましょう)と2年生になったばかりなのに偉そうなことを書いて少し恥ずかしい感じですが、この10年間を振り返ってみると、学園に通学し続けていることは私にとってマイナスなことは何もなくひたすら良いことばかり、毎週出かける予定があり、出で行けば、うるさく喋りまくるのを我慢して聞いて頂ける人たちに会える。そのうえクラブ活動や催しにも誘っていただいて適度な運動や感動を得られますし、新しい出会いもありで嬉しい限り、感謝、感謝です。

「けやき便り」の創刊は2010年10月1日で、当時創刊に関わられた方達もいまだお元気で通学されていますので、私も頑張つてあとをついていきたいと思います。



《ざっきちょうから》(1)

研究生 金森 扶美子

北陸新幹線悲喜こもごも

2024年3月16日敦賀—金沢間の北陸新幹線が開通した。毎年春の彼岸頃、母の命日を口実に小学時代の級友に会うために、富山県高岡市に出かける。この開通は実にタイミングがいい。

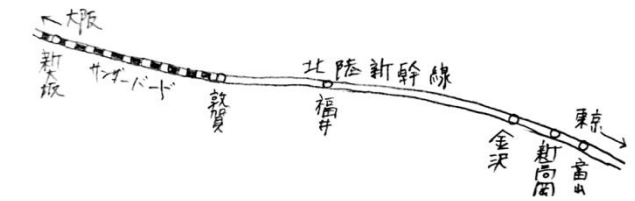
新幹線開通となると混むのは明らか。1ヵ月前から準備する。なになに、大阪から敦賀までサンダーバード、えっ、全席指定？ 一人旅ではどんな人が隣に来るかわからないので指定は好きではないが仕方がない。えっ、女性専用車があるの？初めて聞いた。

これまでは新大阪から金沢までサンダーバード、金沢からわずか10分ほど乗る北陸新幹線で新高岡へ。高い遅い第3セクターを使うより乗り継ぎなので安くはなるが、所要時間は新幹線開通前より時間がかかっていた。

さて、ワクワクの新幹線。敦賀から新高岡まで一直線。今更この歳で新幹線に喜ぶか？！でもなんだか嬉しい。

だが敦賀駅では新幹線に乗り継ぐには8分しかない？ 在来本線から新幹線ホームまで1F～3Fに行くのだそう、これはちょっと老齢の身にはきつそう。調べると新幹線は1時間に2本ほどある。慌てて乗ることはない。30分待っても後のに乗るほうがいい。それには新幹線は自由席に限る。敦賀で途中下車して町で昼食を取るのもいい、なんて考えて出発！

新大阪駅で途中下車できるか確認すると、機械を通さなければ出れるという……が、現実には敦賀駅の改札口で断られてしまう。切符の形式が変わったんだって。折角敦賀の駅前を散策しようと思ったのに、無駄にだだっ広い駅舎の狭い待合室で“コンビニおにぎり”を食べて時を過ごす。これでは帰路は福井で途中下車して“恐竜博物館”でも見ようと思ってた計画もオジャン。いつも帰路は金沢で下車して駅中でラ



ンチやセンター街散策、お土産をを買うのが楽しみだったのになあ……。

高岡駅で急遽全席指定のサンダーバードだけは予約して（全席指定でなければ適当に飛び乗ればよかったのだけど）、帰路は高岡滞在を長くして臨機応変に経つより仕様がな。これじゃあまったく駅から駅へと乗り継ぐだけのつまらない味気ない旅になってしまった。時間も最短で27分縮まっただけで、料金は1500円高くなった（ジパング倶楽部利用）。

JRも世の中もだけど、段々締め付けがきつくなり世知辛くなってきたようだ。福井のお土産買ったかったのになあ。私のせいで福井も敦賀も潤わない(笑)

10代の頃思ったこと

漠然と他愛なく思ったことがある。

中学3年頃、社会科の授業で名前の姓について、結婚したら夫の姓妻の姓どちらでも選べると聞き、先生にでは二人で新しい姓を作れるのかと尋ねたら、聞き間違えかもしれないけど、いいよと言われ、わあ、それはいいなと思って楽しみにした記憶がある。

絶対になりたくないと思ってた姓がある。それは「金」のつく姓である。なのに何故か気が付いたら“お金の森”になっていた。成金とか借金とか意地汚い感じがして良いイメージがなかったから（金がつく名字の方々ごめんなさい）。

やはり昭和36年頃かな？国民年金制度が始まると聞いて、年寄りになったらみんな平等な金額の生活費が支給されるのだとばかり単純に思っていたが、どっこい現実はそうはいかない、年金にも貧富の格差がある……。『はて？』

《ざっきちょうから》(2)

研究生 峠田 桂子

あんた何しに来たん？

春浅い日のこと、後期講座終了日の下校時、看護学科の前の植木の中からプードル犬が現れた。“キャンパス内で誰かが散歩させているのかな？”それらしき人は見当たらないし、学生も春休みになり、テニスコートも静かだった。

「おいで」と言ったら、足元にきた。おとなしい子のように、飛びついたりした。「迷い子かな？」何処かに届けなければと……抱っこした。身体は柔らかくて、暖かく、毛並みもふんわり、つぶらな瞳、両手で抱っこをしたが、自分の左膝が完治しておらず、重いカバンを肩に掛けていたし、バランスが悪い。犬を落としてはいけないし、手摺は使えない。よろつきに注意しながら階段を上がった。

情報学科でお世話になった顔見知りの職員さんに会う。びっくり顔で「どうされたんですか？」経過を話した。「犬は苦手なので、誰かを探すので、ここで待っていてください」とのことです。事務室で待つことになった。

おとなしく腕の中にいるプードルに尋ねてみた。「あんた勉強しに来たん？」と。「きょとん」……。男性の職員さんがこられ「ここは女子大やで？男子禁制や！」その会話を聞きながら入室して来られた教授はにっこりされていた。

少し前に大型犬が迷い込み、警察に届けるかどうか話題になったそう。しばらくその話で賑わっていたところ、犬を探していた人を見かけたと、庭師の方が私からプードルを取り上げ学外へと猛ダッシュで走り出した。



かわいい、おとなしい子だった。首輪はなかった。飼い主が見つかって一安心。よかった。まだ肌寒い日の出来事だった。

朗読倶楽部を覗いて

新学期になりクラブ活動も始まった頃、正式訪問をお願いはしなかったのですが、朗読を拝聴したい気持ちがあり伺いました。これまで学園祭の発表では、登場人物が多くて面白い物語を取り上げられ、研究されてきた結果を発表されていて大変関心がありました。

入室すると、皆さんは早速発声練習をされていました。まず発声は姿勢から、腹筋、呼吸から生まれる大切な基本、身体を柔軟に調えることをされて、美しく明確に言葉が発声出来るように数種呼吸基本が実施されていました。そして滑舌を上げるための言葉、文章の訓練をされていました。(これらの発声練習は、日頃の私達にも必要な訓練だと思い実行してみたい)

その後、この日の本題「金子みすゞの詩集」の朗読に入られました。全員が文章全体総てを読めるように、段落ごとに読み回しを繰り返されていました。全員が朗読された後、詩の内容について、個々に感想を述べられていまして、一層充実した深い内容が浮かび上がっていました。又個々の感性に添った読み方も生まれるだろうと思いました。毎回このような研究をされながら、心の糧も得ておられることを知りました。私は「何とやさしい、素直で美しい詩だろうか」と感心いたしました。

皆さんの経験と関西の特色を生かして、機会を見つけて、まったりした関西弁の物語りを読んで頂きたいと希望しています。

心爽やかな一時でした。益々のご発展を祈ります。



金子みすゞ「みんなちがって、みんないい」
(童謡作家 矢崎節夫氏サイトより)

<わたしの練習作品>

水彩画

国際文化学科3年 山根 邦男



岐阜 白川郷 明善寺 2023.12.20



長野 中山道 奈良井宿 2024.3.14



青森 萱野高原より八甲田連峰 2024.1.20



京都 府立植物園 大しだれ桜 2024.4.18



京都 宝が池公園から望む
比叡山 2024.5.14

けやき遊歩クラブ

遊歩クラブ 発進

研究生 川田 郁夫

遊歩クラブは今年度より新しい体制で活動します。5月24日に開催された総会にて会則が改定になり、新しい運営委員の下での活動が開始されました。長年苦勞されました中村米三郎代表が勇退され、新しい代表として川田郁夫が引き継ぎました。

中村代表は、遊歩クラブ設立以来ほとんど一人でクラブを運営されてこられたと言っても過言ではないくらい遊歩クラブに尽力くださいました。中村代表は、2014年より約10年間の長きにわたり代表をお努めになられました。その間、72回の例会を開催されておられます。途中コロナ禍とご本人が体調を崩されて長期にわたり活動ができなかった時期には、過去の例会の記録を編纂され将来への参考とすべく残されておられます。

中村様は、ご高齢とはいえまだまだお元気でおられますが、自ら後進へ引き継ぐ決意をなされました。中村様には、今後も運営委員として残っていただきご指導を仰ぐ予定です。



この書面をお借りしまして長年のご苦勞・クラブへの貢献に感謝申し上げます。ありがとうございました。さて、学校の体制も刷新されましたことと、遊歩クラブも新体制に移行すべく、新会員の募集と併せて既存会員の皆様にも新しく会員として登録していただくことにしました。その結果、79名の会員が集まりました。そのうち研究生が52名、現役生が27名です。多数の



方々の申し込みをいただき誠にありがとうございました。

5月24日の総会には、36名の会員の方に参加いただきました。令和5年度の活動報告、会計報告、会則の改定報告、令和6年度活動計画が報告され、すべて承認されました。新しい運営委員、役員の紹介の後、皆様から自己紹介していただき、和やかな雰囲気の中で総会ができましたこと感謝申し上げます。

今年度は8回の例会を予定しておりますので多数の参加をお待ちいたしております。

けやき便り編集クラブ

「けやき便り」第30号を発行

研究生 河田かつのぶ

30号の発行に向けて、編集会議を重ねてきました。その中で、「30号までよく続いたね」とか、「記念になるような特集を組めないかな」という声があがりました。「けやき便り」の前身「けやき通信」は、2003年から3年間続いた後休刊となり、その後2010年から「けやき便り」が発刊されました。今年14年を経て30号を迎えたのですが、その特集をどうするかを考えました。

とは言え、ご指導いただく先生方の紹介とメッセージ、入学式や卒業式、新入生座談会など、通常の企画があり、加えて30号特集を組むことになりました。結果は、本誌17ページから3ページ組のささやかな特集となりました。

ところで2019年度に『けやき便り』で見るシニア専修コース受講生の歩み』を『明日をめざしてIV』にまとめています。図書館でご覧いただけます。



けやきITを楽しむ会

令和6年10月末まで休会します

研究生 中村 米三郎

会員への「メール」または新入生入学式のあとの「クラブ・同好会紹介」での
下のようなパンフレットで
説明していた勉強会

Aコース(概論コース)

Bコース(ITパスポート)は
私の地元での止むを得ない事情により、
大変申し訳なく、心苦しいですが、

**令和6年10月末まで
休会させていただきます。**

けやきITを楽しむ会

ICT (Information and Communication Technology)

の実用的な活用と基本的な知識の取得を目的とします

入会者を募集します

Aコース(概論コース)

ICT概論、ネットワーク概論、情報セキュリティ概論を
勉強します。

勉強日は、第一・第三火曜日10時30分～12時です。

5月7日から勉強を開始します。

Bコース(「ITパスポート」コース)

「国家試験ITパスポート」過去問題からIT全般を勉強して、
ITリテラシーを高めます。ITリテラシーとは、ITを理解して
使いこなすための知識やスキルのことです。

勉強日は、第二・第四火曜日10時30分～12時です。

5月14日から勉強を開始します。

Aコース、Bコースのどちらか、またはAコースとBコースの両方を選んで
頂けます。なお、両コースとも会費は無料です。両コースとも「ZOOM」を
使って勉強します。なお、「ZOOM」の資料は提供します。

両コースとも入会申込みは中村までメールをお願いします。

メール・アドレス fzp03667@nifty.com



「ZOOM」による勉強会の風景

けやきITを楽しむ会
オンライン勉強会
代表 中村 米三郎

けやきテニスクラブ

テニスで長生きしよ

情報学科1年 鈴木 好夫

★ クラブ活動(写真は4月)

毎週木曜の午後にクラブ活動をしています。
4月から新しいメンバーも入り、練習とゲーム
で和気あいあいと楽しんでいます。



★ 校外テニス会(写真は9月、3月)

授業がお休みの時期(9月、1月、3月)には
尼崎北部の猪名川公園のテニスコートでテニス
会を行っています。参加は自由で、家族や友人
も来られて花見などもしています。



★ 大学テニス部とテニス会(写真は12月)

テニス部の学生さん5名とシニア10名が参
加した交流会で、学生さんとシニアがペアとな
って5チームでリーグ戦を行いました。

テニス会の終了後、阪急塚口駅前で定例総会
と食事会を行いました。



★ その他の活動

今年は「テニス公開講座(5月～7月)」や「け
やき祭」でのテニス部イベントのお手伝いに参加
します。大学テニス部が出場する関西の大会
の応援観戦も予定にしています。

けやき軽音楽クラブ

新生けやき軽音楽クラブ

研究生 徳田 將之

2016年4月、けやき軽音楽同好会として発足以来、代表を務めてこられた木村勲さん（研究生）が3月に卒業され、後任として筆者が4月から引き継ぐことになった。ここで、今まで氏がこのクラブ創設者として、そのプレゼンスを高めるために尽力されてきたことへ感謝の意を表したい。創部以来、二人三脚で無我夢中に突っ走ってきた感があるが、気が付けば8年も経っていた。「桃栗3年柿8年」と言うが、8年経っても未だにこのバンドの技量は習熟していないものの、発足当初から大きな目標として掲げてきた老人介護施設への定期訪問演奏は実現させることができた。現在、尼崎市社会福祉協議会のボランティア活動にグループ登録しているが、既述のような演奏レベルでも訪問先でそれなりに喜ばれていることが本当に嬉しい。

口幅ったい言い方になるが、この大学が掲げている「ミッション（使命）」のひとつ、地域への「社会貢献」にも微力ながら参画させて貰っていると自負しているが、そのことが我が「THE GAKU-YOU」（バンド名）の活力源にもなっている。本年度も4か所の施設でのデイケアサービス・プログラムに参加する計画であるが、勿論シニア専修コースの受講生やその友人・知人向けのライブ・コンサート（春：新入生歓迎、夏：サマー、秋：けやき祭、冬：クリスマス）も学内及び学外で企画しており、多くの読者の皆さまのお越しを切に願っています。（注）学内ライブでは音楽教室で授業時間中に行うコンサートなので「練習成果発表会」というあか抜けなタイトルも入りますが……。

また、ライブ活動等の詳細については、大学HP（受講生のページ）に掲載しておりますので、ご高覧いただければ幸いです。

<https://saturn.sonoda-u.ac.jp/~senior/seniorkyaki2/>

けやき朗読倶楽部

朗読ってどうよ？

研究生 倉橋 弘行

「今度シニアに朗読クラブを立ち上げることになったので、とりあえず発起人に名を貸してもらえませんか？」「経験もないし、まあ飲み会だけの部員でよかったら」と以前こんな会話をした覚えはありますが、今年で7年間も「けやき朗読倶楽部」に在籍することになろうとは。

「心に届く、伝わる、そして自分も楽しむ」が当「けやき朗読倶楽部」のモットーだそうですが、私が「けやき朗読倶楽部」が楽しいと感じるのは次のようなものです。

まず、第一に当倶楽部は、一つの作品を2回にわたって読んでいくのですが、部員が持ち回りで作品を選んでいきます。その結果、近年推理小説を読み漁っていた自分では全く手に取ることのなかった作品に出合うこととなり、読書の世界が広がりました。（桜の森の満開の下、銀河鉄道の夜、イワンの馬鹿、星の王子様、走れメロスなど）

第二にミニ発表会やけやき祭での発表に向けて練習し、作品の世界観に触れ、自分たちの声で表現することで仲間と一体感を持ち、その楽しさを共有できることです。勿論、その後の反省会（飲み会）では入部時の約束通り、楽しくお酒を頂いています。

当「けやき朗読倶楽部」も一時は20名近くの部員が在籍していましたが、コロナ禍や新入生減、介護のための休退学もあり、現在10名での活動となっています。

声を出すことは、健康に良いのは当然ですが、認知症予防にも絶大なる効果があるそうです。当「けやき朗読倶楽部」は月2回の練習ですが、アクセントがどうか、堅苦しいことはいつさもないゆる〜いクラブですから朗読に興味のある方もない方も、是非一度練習風景を覗いてみてください。

けやきゴルフ同好会

ゴルフルールについて

研究生 川田 郁夫

けやきゴルフ同好会の会員は客員会員を含めて現在 14 名です。

今年度は 4 月より例会を予定しましたが、4 月度、5 月度も雨で中止となりました。2 回とも中止ということで非常に残念でした。今後の開催計画を下記の表に示しております。

2024年度 けやき会ゴルフコンペ開催計画		
回	開催日	開催ゴルフ場
第1回	4/9	雨天中止
第2回	5/13	雨天中止
第3回	6/17	神戸パインウッズゴルフクラブ
第4回	9 月	東条パインバレーゴルフクラブ
第5回	1 0 月	関西クラシックゴルフ倶楽部
第6回	1 1 月	神戸パインウッズゴルフクラブ
第7回	1 2 月	アークよかわゴルフ倶楽部
総会	2 月	

※ 7 月、8 月は猛暑のため開催せず

間違えやすいゴルフルールを一つ紹介します。
池越えのショットでグリーンを狙ったが少しショートし、砲台グリーンを斜面上を転がり落ちて池に入ってしまった場合どうするか？

池に入ったので 1 打罰を加算。

- ①ボールを最後に打った位置、もしくは、
- ②ボールが最後に池との境界線を横切った後方線上、のいずれかにドロップする。
- ②の場合、たとえグリーン側から池に入っても、その池の後方となるので池越えのショットとなります。

ただし、赤杭あるいは赤線がある場合は、グリーン側から打てる場合もある。

③ボールが戻って池の縁を横切った地点から 2 クラブレンジスでピンに近づかないペナルティエリア以外のコースエリアにドロップできれば打てる。しかし、池を越えた対岸でピンに近づかない 2 クラブレンジス以外の場所は池の中になることがほとんどであろう。この場合③の救済を選択できない。

皆さん気をつけましょう。

けやきカラオケクラブ

3333 歌唱&1500 曲へ！

研究生 木下 俊造

前期も 2 ケ月が経過し、新入生の皆様も大学生活に慣れられたと思いますが、新入生だけでなくクラブ入部をお考えの皆様、不思議なクラブ「けやきカラオケクラブ」を覗いてみられてはいかがでしょうか。

昨年度は年 10 回の例会を実施し、2014 年から 2024 年 4 月まで、総歌唱回数 3125、歌唱曲目数 1320 を数え、いろいろなジャンルの曲が歌われています。

クラブのモットーは、ゆる〜い雰囲気、おしゃべり拍手自由、ではいり自由、費用は実費のみなど、中でも不思議の所以「おしゃべり自由」は、自己紹介等でおしゃべりされているときを除き、歌唱中もおしゃべり OK で、当初は戸惑われるでしょうが、慣れれば応援されているかのように？ 聞こえるかもしれません。



例会イメージ

3333 歌唱と 1500 曲を目標に、今年度も「新入部員歓迎会」「歌の旅」「リクエスト特集」「暑気払い」「3 minute トーク」「年末紅白歌合戦」等の企画を予定しており、センター前のポストには例会案内書もありますので、ぜひご一読お願いいたします。

社会連携部

生涯学習センターからの お知らせ

園田学園の生涯学習が今年度45年、シニア専修コースが開設されて22年を迎えます。「社会連携部 生涯学習センター」は、新部長とともにより一層みなさまが充実したキャンパスライフを過ごせるようサポートいたします。

◎センター内に各学科・学年、各クラブのレターBOXの引き出しをご用意しておりますので、ご利用いただけます。研究生の方は、研究生ファイルを各自で確認できるように配置しております。

◎社会連携部ブログ、けやきのわ(シニア受講生のための交流/クラブ同好会等が運営)ブログをご活用ください。

◎学園祭「けやき祭」が10月26日(土)、27日(日)に開催されます。

シニア専修コースのみなさまもぜひお越しください。

◎4号館櫓和館前でカラフルなキッチンカーで人気のお店が登場しています。毎月の出店スケジュールは4号館入口に掲示していますので、ご覧ください。



◎本学学生とつながりがある「塚口商店街」にはたくさんのお店が並んでいるので、阪急塚口駅周辺の街歩きを楽しめます。お気に入りのお店を見つけてみてはいかがでしょうか。



◎けやき並木に満開に咲いたつつじはご覧いただけましたでしょうか。ほかにも、学内にあるびわの木にたくさんの実がなりました。



◎2024年度前期公開講座は、シニア専修コースの受講生の方から多くお申込みいただいております。後期募集時期は8月下旬を予定しておりますので、ご興味のある方はホームページからお申込みください。

▶編集後記◀

▶ 弘前城の桜を紹介します。たおやかな枝先が折り重なり作り上げた見事なアートです。

研究生 伊藤幸子



▶ 「光陰矢の如し」、30号発刊で投稿を振り返ると環境の変化を感じさせられます。私達の自由な活動や発想を綴る事が出来ていることを幸いに思っています。

研究生 峠田 桂子

▶ 里山でキャンプをした時、葉巻状の葉っぱ（ゆりかご）が木の下に落ちているのを見つけた。

不思議に思い、昆虫好きの孫に尋ねたところ、それはオトシブミという名の甲虫類で、外敵から卵を守る為に葉っぱの中に卵を産みつけ、幼虫はその葉っぱを食べて成長するという。

その葉っぱのゆりかごが、落とし文に似ているところから名付けられたという。落とし文とは、その昔秘めた思いを巻紙にしたために相手の気づくところにそっと落とした文のことをいう。

生きものの営みに少しふれ、自然界の神秘に驚き、興味関心を持った。

研究生 三木 静子

▶ 第30号の最初の編集会議から参加させていただきました。これまで知らなかった編集クラブの方々の苦勞を知りました。

研究生 大林 泰子

▶ 「金子みすゞの詩集」を取り上げて練習している朗読倶楽部の皆さんについて、峠田桂子さんが書いておられました(P38)。その中の、金子みすゞの「みんなちがって、みんないい」という言葉に惹かれて

他の詩も拾い読みしてみました。『星とたんぽぽ』では、昼間見えない星やたんぽぽについて「見えぬけれどもあるんだよ」とか、『積もった雪』では上・中・下の雪の気持ちにまでなって「中の雪 さみしかるな 空も地面も見えないで」などとあります。

私は年齢を重ねてようやく、自分中心にまわっていた世界から、少しづつまわりの「自然」や「小さな命」に目が向くようになるように思っていました。金子みすゞは20歳そこそこでその境地にあったということに驚きました。

研究生 桜井秀也

皆さまからの投稿をお待ちしています！

1. 原稿について

原稿の長さは、1ページ(約1500字以内)、長くとも2ページとし、写真・イラストを挿入する場合は、そのためのスペースを本文から減らしてお書き下さい。「私の作品」につきましては、1ページ以内でお願いいたします。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。お近くの編集クラブ員にお渡しください。

② テキストメッセージでいただける方は、下記アドレス宛にファイルをお送りください。

hideyasakurai94@gmail.com 桜井秀也

③ 写真掲載について

「けやき便り」はウェブ上にも掲載されます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いします。

2. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を逸脱していて、編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

3. 原稿は、一部変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集クラブで気がついたあきらかな誤記やわかりにくい記述、不適切な表現を避けるため

4. 投稿される方はお名前を書いていただきますようお願いいたします。